愛國婦人

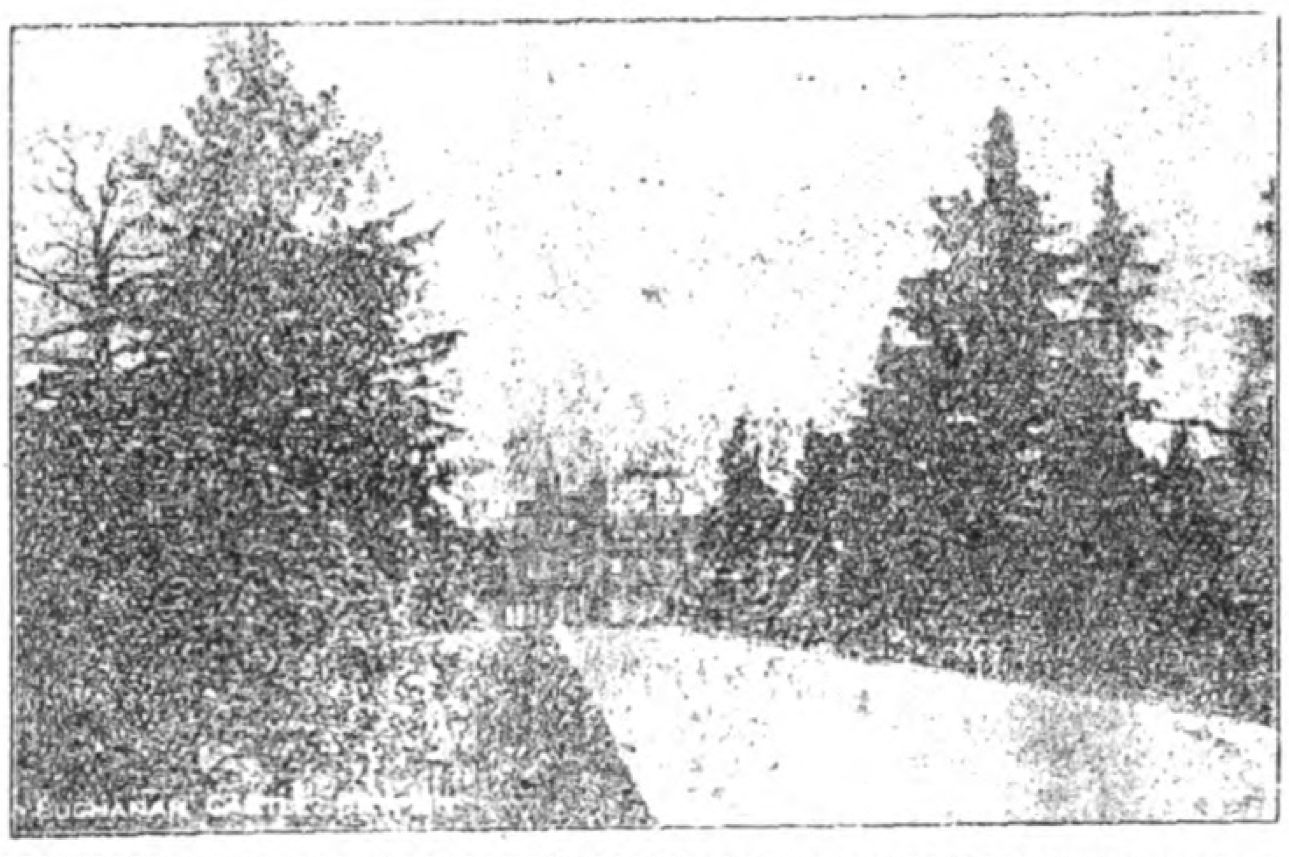
每月五日二十日發行
一部金參錢　壹ヶ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六十錢
本號全部禁轉載
發行所　東京麹町區（牛ヶ淵公園）愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　大久保高明

◎本號には伏見宮貞愛親王殿下御渡英の際「デスボロー」卿夫妻の催に係る午餐會後の寫眞附錄を添ふ

社説

今の娘

今の娘は、我儘ていかず、少しく學問さすと、理窟ばかりいひて、なかなか親の言ふことなど、聞いては居らず、娘一人を全く困りものに仕てのけたりと、今更娘に教育受けさせたるを後悔する人あり。一體教育は、人を良くするものなれば、それは何角の間違なるべしと、よく檢べて見るに、全くそれに相違なき事實あり。折角娘の希望にもあり、東京へ出して勉强させたらば、一層親の力ともなり、立派な嫁となるべしと、肥桶を擔ぎ、芋を掘る中から、絞り出したる學資をば娘はやれ夏の手袋だ肩掛けだ、ダンスには、あの靴でなくては出られぬ、今度の何々學校のテニス大會は、見逃すべからず、それには絹のハンケチ、附いては香水も必要なりなど、專ら贅澤學に勉强にて、傍ら學校に通ふ有樣故、おしやればかり上手になつて、學問は一向に進まず、それでも何うしたか、卒業證書だけは貰ひて、親はこれでやうやう荷が下りた、安心したと、大喜びにて、待迎へたる我が娘を見れば、廂髪遠く結ひ出して、手袋はめたる手に、細骨の蝙蝠傘提げて、踵可笑しき黒光りの靴を踏み鳴らしつゝ、分りかねたる東京言葉とかを使ひて出迎ひの誰彼れを引受けて、口を開かせず挨拶するさまは、手の裏にタコの出來たる我が子とは、思へず。少々當てが外れたれど、まアまアと、何も云はず、暫く一所にするがまゝを見て居れば、母が早くから起きられて、煮焚き洗濯、上下の掃除などせらるゝも、知らぬ顔にて手傳ふともせず。朝から机に倚れたり、仰臥きになつたり、欠伸して、一向役に立たず、これではと、少しく意見すれば、理想がどうのこうのと、英語交りに逆捩ぢを喰はす者もあり。或は一人娘の卒業したらば、誰れを婿にと心組して、歸つて來たを待かねにて、この事話しかくれば、私はこれから米國に遊學したき心願にて、且生涯獨身にて暮したければ、後は然るべき者を迎へて相續せしめ、私の事は、構はずにおいて戴きたしと、言ひ出でられ、他人に後を取らすために、態々娘に教育を仕込んだのではなかつたにと、親を泣かす者もあり。教育受けたる娘の我儘にも、實際困つたものなり。これ家庭の育て甘くして、幼い時より、娘の言ひ放題にして、仕付といふ事をせざると學校が、一般家庭の生活の度と其要求とを無視して、突飛なる西洋流の教育を施すと、境遇の誘惑强くして、人の眞似が仕たくなるとに由るなり。然らば本人には何たる責もなきかといふに、大有りなり。今の娘は樂が仕たい、めかしたい一方にて一向苦勞をする氣なく、己れの都合ばかり考へて、人は何でも構はず、虛榮心盛にして、眞面目に働くの氣なく、意志薄弱にして永持てせず、又容易に人に陷らる。畢竟家庭と學校と本人の三拍子揃ふて、今の娘が出來たるなり、されど皆が皆そうといふにはあらず、中には感心なる娘もあれど、教育を受ける娘に、斯る苦々しき者少なからざると、殘念なれ。女子の教育盛となりたりとて如何に女子が學問出來たりとて、實際とても男子と較ぶべくもあらず。女子なればこそ、少しく學問出來れば、珍らしがらるゝなれば、學校を卒業したりとて、慢心を起さず、餘り饒舌らず、嫁ぐべき者は嫁ぎ、家を繼ぐべき者は繼ぎて、よく其任を全ふするこそ、眞に教育ある婦人とこそはいふべけれ。能ある鷹は爪を隱すの諺あり。鷹が爪を隱さうと出さうと、我が關する所にあらずと想ふ者あらば、間違なり。婦人は如何程高き教育を受けたりとて、何處までも婦人らしくありたきものなり、況んや普通の教育を受けつゝある今の娘をや。出來損ひとならざるやう、本人の爲め、家の爲め、大きくは、國のために願ふ所なり。



右の挿圖はスコットランドの北部地方なる北上著明の古名家モントローズ侯爵居城の前景なり、伏見宮殿下今年御渡英の節三日間御滯在あらせられ、コンノート殿下の先年我が藤殿島津公爵邸に於いて受けさせられたる優遇の御返禮として鄭重なる待遇を受けたまひたるところ、其詳しき事は第三頁に加藤副官の談話あり、就いて見らるべし

誹謗讒誣の罪

愛國婦人會評議員　鳩山春子

人神に非ざるよりは、誰も其弱點なきものはありますまい、たゞ其大小と多少とに依り善人とも惡人ともなるものであります。されば、一家族又は親友間にありては、互に其弱點を許し、互に忠告し相互の愛情に依り、徐々に改善を計るこそ美しき心掛けなれと存じます。

人は天性孤立寂寞を嫌忌するものにして、同胞相會し、互に胸襟を開き相語るは、人生快樂の最も大なるものに相違なき事と存じます。

たゞ幼少の時分より、談話に就き教育なきものは、其興に乘じ、徒らに事を針小棒大に語るのみならず、無限の邪推をも加へて、話に色をつけ、以て相手方に深く感ぜしめ、其興を大ならしめむと試むる癖ある人があります。

或る人斯る人を評して「彼人は常に虛言計云ひ、其虛言が悉く人の惡口なれども其話が實に面白いから時々交際して其話を聽く、然れども、斯る人に惡く云はるるとて、少して掛念に及ばぬのである、何人も其人の話を信ずるものがないからといはれたとがあります。

斯る事は一應不審な如なれども、元來人は誰も人物評を好む傾向あれば、生きたる小說として隨分虛言を面白く聽く例無しとも限りません。

而して思慮淺き人は斯る話を何の考もなく他に傳へ、其信否は更に掛念しません。而して第三者又輕卒に之を種々の人に傳播する中、其評されし人の盛名を羨み、其地位を奪はんと、豫々企て居る卑劣の人あらむか、此機逸す可らずとて、其黨與をして盛に之を喧傳せしめ、世上靡然として遂に之に和するに至るを待ち、時の主權者に之を誹謗讒誣する時は、公平摯實の人も尚其判斷を誤り之れを疑ふに至るを以て、遂に其名を失はしめ、其身を死せしむる事、古今の歷史に其例が少なくありません。

誹謗讒誣の罪は、數多の罪惡中其最も惜むべきものにして、啻に盜賊などの比ではありません。盜賊は物品を奪ふに止まるも、誹謗讒誣は、人の名譽を侵害し、詐僞の手段を以て、其職を奪ひ、其身を殺すものなれば、其賤劣極惡誠に戰慄すべきてあります。

畢竟ずるに、甲は母親又は母親に代りて教育の任に當るもの、其性卑劣と限らざるも、子女が其語を誇大にするを却て珍らしく面白がり、之を戒めざりしに依り、乙の母親又は其代理者が、性質賤劣にて他人の損害を喜び其苦痛を樂しむ如きものなりしに依る事と存じます。之を思ふと、子女教育の任に當るものは、誠に寒心すべきてありませんか、よく良家の主婦が、其最愛の子女を子守に脊負せ、終日戶外に遊ばしむるなど、焉ぞ此間此大罪を犯す原因を醸成しつゝあるなきを保し得ませう。

盜賊は明確に法律の制裁あれども。名譽は財產と異なりて無形の者なれば、誹謗讒誣に就ては法律の制裁自ら周到なるを得ざれば、之に對する道德上の責一層深く、之に對する道德上の制裁も、更に重き事を母親たるものは、其子女に幼時より知了せしむべきて御座います。

水害各地の會員諸君に申す

去る八月下浣の大洪水は實に近年未曾有の事にて人命を損し財產を流せるの慘狀聞くだに慄然たる次第に候思ふに我が親愛なる會員諸君中にも定めて此の災厄に遭遇せられたる人々蓋し尠少ならざるべしと同情に堪へず候略儀ながら玆に紙上にて御見舞申上候

明治四十年九月五日　愛國婦人會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

官營煙草に就いて

煙草專賣局長 仁尾惟茂

御婦人方の御讀みになる雜誌に煙草の御話をするは、心なき次第のやうなれども、我煙草專賣事業は、貴會とは相關聯し、日清戰役及日露戰役のため、財政上の必要より、國家の經營として、初めたる事業にして、此事業は、勢ひ多勢の人、殊に女工＝幼女の手工に待たざるべからざるもの多く、戰時其父兄其夫の從軍したる留守居の子女等によりて、事業上多大の成功を得たるは、常に貴會の斡旋の勞淺からざるによる譯にて、公人として私人として、貴會の事業の、公益に資せられたると深く感謝する所であります。さて平常此煙草を製造して居ります役所は、全國煙草製造所が二十七ケ所ありまして、此外に尚製造所の分工場が六十六ケ所あります。此製造所と分工場との煙草の製造を受負うて居る民業の工場が、全國通じて五百七十二ケ所ありまして、最近の調査に依れば、役所の方丈にて使ッて居る職工が、男工三千九百九十七人、女工一萬五千三百九十四人にして、受負の民業工場に使ッて居る職工が、男工一萬二千五百八十五人、女工三萬四千八百八人にて、一口にこそ幾萬と云へ、其實數に至りては、實に夥しく、其操縱に困難なることは、御話になりませぬ。此れは煙草の製造に直接從事するもの丈ですが、此外に間接に製紙、印刷、紙箱の製造等に從事する男女の職工も亦少き數ではありませぬ。此多數の職工は、戰役の當時にありては、何れも倚るべき父兄や親しむべき夫の出征したる後を顧みざらしめむがために、勞役に服したるもの多く、戰後は殊に倚るべきなき寡婦孤兒の類が多く働いてをります。尚煙草專賣の仕事をして居る役所は、此外に煙草收納所とて、百姓が丹精して耕作した煙草を受け納むるところが十五ケ所、此出張所が百三十五ケ所、出來上ッた煙草の販賣を司ッて居る販賣所が十四ケ所、製造の傍販賣して居る所が七十九ケ所あります。煙草の作付の時から、收穫、製造、販賣の一切の仕事をするに掛ッて居る役人が、長官一人勅任事務官一人勅任技師一人奏任事務官七十九人奏任技師五十三人判任書記千七百七十四人判任技手六百八十一人の多勢であります。さて此煙草と云ふものは、社交上非禮のものなりと云ひ、衛生上有害のものなりと云ひ、夫々專門家の研究もありまして、未だ結論と云ふまでには進みませぬやうですが、世の中の事は正義の前に立ちて批難せらるゝものが却て常に隱然の勢力を有し居るものと見え、夫の酒の如きも、世の正論の勢盛んに宗教の力普及する反對に、其釀造高の多くなるは、世界各國を通じての事實であります。自分は人道上非禮とし、若くは衛生上有害として排斥せらるゝ、酒や煙草の繁昌は、必ずしも望ましき事とは信じませぬけれども、此酒は數千年前より盛に行はれ居りまして、今では國庫收入の大立物であります。煙草も亦我國では四五百年このかたのものなれども、外國にては其流行古く、元は南洋より其種子と其葉とが東西南北に擴がつて繁殖したるものにして、今日にては上流社會にては奢侈に屬する贅澤品たる傾なきにあらざれども、精神上の慰安を求むるに縁遠き下層社會にありては、酒と同じく寧ろ必需品とも申すべき勢であります。此酒や煙草の如きは必需品のやうなものなれども、嗜好するものとせざるものと、用ゐても差支へなく又用ゐねばならぬと云ふものでありませぬ故、課税の公平を得るための方法として、專賣と云ふ事の行はれて居る譯であります。

(以下次號)

偶感 (承前)

暹羅皇帝陛下法律顧問法學博士 政尾藤吉

第二 海上生活の趣味 自分は殆ど毎隔年歸省して居るが其歸朝の際の航海中の事を御話しやう、航海の順序は、暹羅より新嘉波に渡り、こゝで歐羅巴と横濱との間を航海する汽船に乘替へるのである。此種の大汽船は極めて便利に準備が出來て居り、周到なる注意を以て、船客に滿足を與ふるのである。食料品食器寢具等が順序よく整へられ、規律がよく立つてあり、食物の調理も又善い加減に出來、十分に嗜好を滿足せしむる樣に出來て居る。朝早くおめざめの珍菓より始まり、時々の飲食物の胃腸に加減よく供給さるゝから、子供ならぬ吾々大人まて、一日七度の飲食物も樂しく待ち兼ねらるる氣味さへ生じ來て、波上天國の思をなしつゝ過ぎ行くのである。殊に日々數回の音樂は、樂隊の奏する所であつて、其瀏喨たる妙音は、寄せ來る波濤に和して、子供を喜ばしむるは勿論、吾々大人をして神氣爽快を覺えしむ。其他遊戯舞踏の仕組なども、完全に出來て毫も氣を倦怠せしむる事なく、少なからぬ興味を與へつゝある内に、船は香港上海等を經て長崎に着くのである。長崎より神戸に至る間は、專ら遊覽船となるのである、(急ぎの船客は長崎より上陸す)船一度瀨戸内海に入るや、眞に箱庭然たる海國の天景を座ながらにして眺めつゝ、山海の景を指呼の間に迎送しつゝ島々の間を縫うて行くのである。爲に長途の航路も愉快の間にいつか横濱に着いて、海上生活のまだ物足らぬ氣がするのである。扨此の三伏の大暑を東京より飛び出して、海濱や山中に靜養すると云ふ、此頃の流行は、慥に我國俗の一進歩と認めねばならぬと思ふ。されど、尚一飛躍して、海上生活てふ此種の旅行によりて、避暑を利用せられ、殊に令孃方を御引連の上、北海なり滿韓なり其他相當の地方へ、海上生活の無上の趣味を試みられんとは、國運に相應したる快事ならずやと思ふ。特に便利なるは、新嘉波地方にして、同地と日本との間には數多の汽船會社の定期航海あり、發着度數も頗る多く、航路も至極安全なり。唯暑さの關係より冬期旅行に此路を取るが上乘の策である。今や我國は負擔大に膨脹し人口大に繁殖し、今後益々發達するに從ひ、之を内に於て充實せしむる事は、早晩其餘地がなくなるであらう。縱ひ餘地がなくならぬとしても進んで之を海外に發展せんと企畫するは、實に國家百年の長計にして、誠に結構なる方針であると思はれる。如斯趨勢なれば、内助者たる婦人殊に上流にある未來の良妻賢母たるべき方々は、徒に内地に於て、保守的の避暑を試みらるゝよりは、寧ろ進んで海外的思想を發揮すべく、母に從ひ遠洋旅行を企てられんことを希望するのである。母子に於て此心掛あるは現下の國勢たる海外膨脹の時運に順應する所以にて、之を遂行せしむると否とは其責懸つて現在の家庭主權者たる母の權内にある譯である。偶思ふ所を述べて貴婦人方に問ふのである。

虚飾

浦月子

「心こそ心迷はす心なれ心に心心ゆるすな」これは、情意と精神とを述べた道歌である。精神は、常に清淨無垢鏡のやうでなければならぬ。情意は、世のあらゆる事物にふれて、種々の感想を起す物であッて、所謂朱に交はれば赤くなるの譬へ外物の色に染み安く、善きにも惡きにも入る道の媒はそれである。精神の鏡すみ渡る時は、善もなく、惡も無く、是もなく、非もない、只種々の影の映るばかりである。此のすみ渡つた心こそ、善惡是非の差別を照す鏡なれ。然るに此の影のみを見て、鏡を見る事が出來ぬ故に、心を曇ッた物にして仕まふので、精神の素養を要するはこゝにあるのである。感情の爲に良心を晦まして却て得意の人がある。「人とはゝ知らぬといひてありなまし心のとはゞ何とこたへん」といふ歌もある。人と生れし以上は、いかなる無教育の者でも、深遠高尚な辨別はともかく、一通りの良心を備へぬはない筈である。その良心に背いて、利に迷ひ、名譽に迷ひ、色に迷ふ、すべての欲情は、みな、意志の弱い爲心の鏡に曇りを生ずるのであッて、遂には、明かに照らす光を、掩うてしまひ、非義の利を得て人に誇り、虚名を擧げて世に高ぶる、何と淺ましいことではあるまいか。世の中に仕事をするには地位もいれば名譽もいる、裝飾も莊嚴も入用である。けれども求めてはならぬ、清淨なる精神に、無我の光明を放ッて、萬事に深切であッたならば、自然に其の德の顯はれぬことはない、寸を以て尺を欺くは、世に珍らしからぬ事である、虚飾、々々、忌はしく厭はしいは虚飾である。如何に他を欺きたればとて、心を何とすることが出來やうぞ、いかに曇り慣れたる精神なればとて、天から授けられた靈は、どこにか必ず咎めて居るに相違ない、僞は、常に心を苦しませる基であッて、弱點を持つ人は、人を恐れねばならぬ、人を恐れる者は、暗い道をゆかねばならぬ。暗い道を行く者は、安心してあるく事が出來ぬ。分に安んじ、他を羨まず、益々勉め、益々勵んだならば、何事にも、成功することが出來やう。成功した人は、尊い人である。敢て、身分の高下によらぬ。表面の榮達を嬉ぶよりは、内に精神の確立を期し、忠實に志を進めねばならぬ。精神の鏡の曇りを去ッて、外から映る影に迷はぬやうにせねばならぬ。女は殊に、感情に制しられ安い、注意せねば暗闇に落ちる。虚飾と虚榮とを去ッて、誠の道に光明を認めねば、暗闇は後悔を持ッておしよせて刻々に逼ッて居る。

(完)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

韓國委員本部相談役

兒玉子爵談片（承前）

次いで京城内の騷動は日本の兵隊の增加するに從つて漸次沈靜の有樣に歸して來たが、八月一日に至つて朝鮮の兵隊の解隊式を行ふと云ふことが起つて來た、朝鮮の兵隊は京城に駐在するものが約四千人程あつて、其兵隊を同日の午前十時を期し練兵場に集らせて之に金錢を贈與して同時に其全部を解散する筈であつた、其の準備として早朝軍司令官々邸に大隊長を集めて各其の趣旨を訓示して無事に解隊せんことを努めた、所が第一聯隊の第一大隊の大隊長は同日病氣と稱して軍司令官の官邸に出て來なかつた、それだから日本の教官を其聯隊に遣つて、其旨を訓示させて解隊の事柄を傳へた所が、其大隊長は自己の衛兵の兵舍に這入つて自殺を遂げた、

是に於て今迄靜かであつた所の兵隊は一時に銃を取り劍を帶びて發砲することゝなつた、其隣りにある第二聯隊の第一大隊も之に應じ不穩の暴動に及んだ、それであるから日本の兵隊は南大門を本陣とし、さうして梶原大尉は僅に四五十名の兵隊を引連れて、其第二聯隊の兵營に突撃をして其兵營を占領した、不幸にして梶原大尉は砲彈に中つて斃れ、日本の兵士にも多數の負傷者を生ずることになつた、

是等の日本の負傷者は梶原大尉以下二十四名であつた、悉く之を衛戍病院に收容したのである、韓國の死傷者は約百九十名に上つて、其中六十名を衛戍病院に收容し、卅四名は亞米利加の病院に收容したと云ふ騷ぎである、斯の如く一時に多數の傷病兵を生じたが爲に衛戍病院の混雜と云ふものは一方ならざる有樣であつた、それであるから愛國婦人會は早速是等の病兵の慰問、或は救護に力を盡して、會員交る〲病院に臨んで、さうして或は病兵に食事をさせ、或は病兵を扇いてやり、又は繃帶を卷き傷を洗ひ、其他總ての出來得る方法を以て病院の救護事業を補助したのであります、

それから又此變亂の爲に死亡したる警察官四名、陸軍の將校以下四名に對しては夫々弔慰料を支給し、將校の葬儀に對しては生花其他の供物を供し、又招魂祭の時分にも供物を備へるは無論のこと、各貴婦人が出席をして何れも其仕事を手傳ふと云ふ有樣であつたのです、斯の如く此不時の變亂に臨んで、貴婦人方が私の事柄を打捨てゝ、傷病者の救護慰問に從事せらるゝと云ふことは、其負傷者或は其遺族に對して非常の感動を與へたのみならず、京城に長く住つて居る亞米利加の宣教師などは非常に其事に感激をして、自ら進んで寄附金を爲し、或は贊助員とならむことを希望して來る向も出來て來たのである、是等は全く日本人の愛國心に基くものとは云ひながら、本會總裁殿下の懿德に基いて會員が熱心に會の爲に奔走した結果であると思ふのです、尙其他是等の傷病者の救護に對して十分に力を盡すことの出來たのは、本年の春から愛國婦人會の一事業として、救護部なるものを設けて、月に三回づゝ集會をなして看護救恤の講義を聞いて、尙實際の應用に力を盡しつゝあつたが爲に、斯の如く病院に於て醫師の助けを爲すことが出來たのであります、又元の內務大臣李夫人を始めとして韓國の貴婦人も進んで今回の事變に關して負傷したる者の慰問救護に從事し、自ら繃帶を卷き或は傷口を洗ひ、熱心に負傷者の治療の手傳をして居つたのです、伊藤統監が立たれる出發の其間際に、私が其話を統監に申上げた所が、統監は非常に喜んで、斯の如くして始めて日韓婦人の交誼を厚くし、韓國婦人の狀態を進めて往くことが出來るのであると云はれて非常に滿足を表せられたのである、今日に於ても尙其傷病兵の慰問其他の事柄に力を盡しつゝあるは勿論の事、今後に於きましても多少の事變のある場合に於ては、適に應急の處置をするとに總ての準備を整へてあるのです、つまり今回の事變に於て斯の如く愛國婦人會が活動することの出來たと云ふ事實は、將來愛國婦人會が韓國に發展する上に於て、非常に好い影響をおよぼすことゝ信じて居るのであります。（終）

歐米婦人觀一斑

蘇國の名家「モントローズ」侯の家庭及其他に就いて

山本大將副官　海軍中佐　加藤寛治

山本大將副官加藤氏に面會を得て今回の歐米巡回中女子に就て觀察せられたる事の談話を請ひしに、早速快諾ありて次の談話をものせられたるは深く感謝する處なり。其標題は、記者の假りに設けし所にて且つ文章の責も記者に在り。

予に向つて、貴誌の爲、巡回中の婦人觀察談をなせとは無理であらう、元來大將一行の巡視其ものが軍事視察に限られ居るは無論、貞愛親王殿下御渡英の目的が、我皇室から「ガーターミッション」に對する御挨拶の爲であるから、其隨行者たる大將一行も期日短少にして、且つ旅行の自由も普通の場合と異つて居り、貴婦人方と接近する場合も殆ど無かつたのであるから、到底御需めを滿足せしむる如き御話の出來ないのは明白であらうてはないか。されど折角の事且大將閣下も目下御多用中のこと故自分に於て感觸せし丈の婦人觀をお話して見る事にしよう。

公式の御滯英中「コンノート」親王殿下のお催しになつた各種の晩餐會で、英吉利の最も上流の婦人などの集まられる機會に接したことは度々ありました。併しそれは皆公式の場合ですから、極く表向のことだけしか分らない。極く平常の家庭の模樣を見ることの出來ましたのは、蘇格蘭の「モントローズ」侯爵の家に殿下首め吾々が三泊して居りました機會が、一番好機會でありました。

（モントローズ侯の居城）

「モントローズ」侯爵は蘇國の古名家にて形勝の地を澤山に領有せらるゝ方である。貞愛親王殿下は「ガーターミッション」の御返禮として英皇室へ御名代の御資格にて成らせられたのであるから英國に於ては無論國賓として最敬禮を以て御迎へ申上られたのである。其間五月六日より十三日迄繼續したのである。其以後は客賓として待遇を受けらるゝ事になつた、そこで蘇國の地方へ巡遊遊ばさるゝ事となつて彼「モントローズ」侯爵家へ三日間御宿泊遊ばされた、「コンノート」殿下が偶薩の島津家へ御立寄相成たると髣髴してをる。東西の差こそあれ、國の一端にまで巡遊せられて、しかも共に其國の名家へ親しく臨まれて、各手厚き心盡しの饗應を受けられたと云ふ御間柄は誠に同盟國の特別親交の趣きも偲ばれて何とも申されん情誼の厚き處が察せられるのである。

殿下の御滯在中私どもの一番感じたことは、家族の總てを擧げて御接待申上げられたことゝて、侯爵夫婦、令孃、令息、それから殿下の接伴の爲に來て居られた陸軍の將官、是等が一緒になつて、もう朝から晩まで三度々々御一緒に御陪食申し上げて接待すると云ふやうな譯で、御食事の間には家族が集つて自動車或は侯爵の持つて居らるゝ「ヨット」などに分乘して、夫人自ら案內せらるゝと云ふやうに、殆ど至れり盡せりと云ふ風であつたです。詰り家族の人がさう云ふ工合に盡される所の志と云ふものは、日本で言ふと、私なら私の家に客があつても、先づ主に主人が對手になつて居つて、家族の者は兎角臺所に引ッ込んで居つて、臺所の始末しかしないと云ふやうな譯ですけれども、近頃は段々世の中が變つて來るに從つて貴族の所ではさう云ふこともないだらうと思ひますけれども、まだ家族の總てが揃つて客を歡待すると云ふやうな習慣は日本には少ない。それから日常の模樣はと云ふと、朝の八時が殿下を首め、吾々隨行員の食事の時間と決められて居つて、其時には令夫人令孃令息などがチャント衣服を着更へて食堂に來られて、殿下のお出でになるのを待つて居る。さうして食事が始まると、朝食は英吉利の習慣として色々食べる物が揃へて食堂の片隅に置いてある。「オムレツ」もあり「ビフテキ」もあり魚の「フライ」もあると云ふやうなことで、各種の御馳走が列べてある。

それから卓子の上には咖啡と紅茶、どちらでも好きな方を食べるやうに、「キャットル」と云ふ咖啡を沸す道具に入れて机の上に置いてある。それに侯爵夫人と令孃とが附かれて殿下首め隨行員の希望を一々控へて、あなたは紅茶がお好ですか、あなたは咖啡ですかと云ふやうに、自分からお給仕をされる、是等は極く私ども愉快に感じた。さう云ふ工合にして、今度は召上る物は「オムレツ」がお好ですか、或はお肴を上げませうかと云ふやうなことを、自分から世話されて、此方がマゴ〱して居ると自分で行つてお皿に盛つて來て呉れると云ふやうな譯で、恰も日本で日本の婦人が非常に客を饗應すると云ふ場合と同じです。唯片ッ方は上品で片ッ方は或時には下女らしくなつていけませぬけれども、そこらは極く上品で客に對する所の最も歡待の心が眞實から現はれるやうになつて居ります。さう云ふ風は敢て今の「モントローズ」侯爵の家ばかりで見たのではなくして、其侯爵の家に往く前に「ニューカッスル」と云ふ處で有名な「アームストロング」と云ふ造船所、其處の社長をして居る「サーアンドリューノーブル」と云ふ有名な造兵家です、其人の息子の「ジョンノーブル」と云ふ人の處に泊つた時も矢張同樣な樣子を見たのである。矢張是も主に朝飯ですが、自分等がマゴ〱して居ると奥さん自ら茶の世話から食物の世話まで一々やつて呉れると云ふやうな譯で、實に自分等は愉快を感じました。普通の日本の人は西洋では女が威張つて居る、女の靴まで穿かしてやると云ふ習慣があると云ふやうな、女子崇拜主義の極く極端な所を誤り傳へて居る話とは非常な差であつて、殊に上流の人にはさう云ふ點が著しいことを認めた。是は他の國では餘り見なかつたのでありまして、唯露西亞に於て時に依るとさう云ふことを見たこともあります。彼處は餘ほど東洋流でありますから、婦人が大變に能く夫や客人、即ち男子に對して世話をすると云ふことを目擊する場合が多かつたです。けれども其やり方が何となく英吉利の婦人のやうに上品には往きませぬ。

（以下次號）

禮と虛禮＝禮……をなすに當つては恭敬の精神が其內容をなして居るてなければつまりませぬ、若しそれがなければ則ち虛禮に陷るを免れないのであります、それで眞に內に恭敬の精神があつて之を外形に發表して禮節となる處に眞の禮節が出來るわけてあります（日本學生寶鑑）

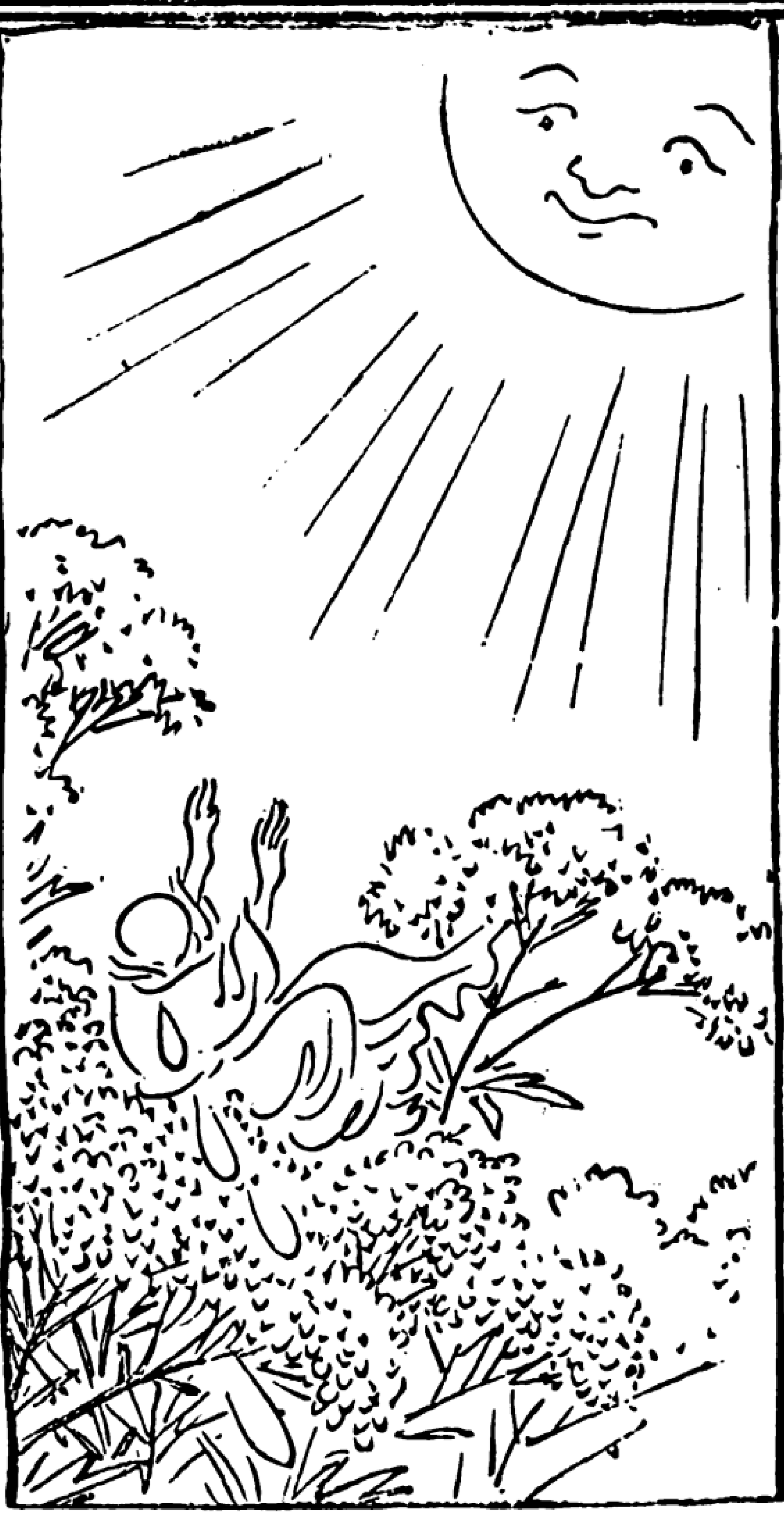
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

露の行方

木村小舟

女郎花が黄色い毛氈の樣に咲いて、如何にも夫れが美いので、月の都の白露は、不圖下界へ行つて見たい氣に成り、御主人のお月樣が、未だ雲の中で、晝寢していらつしやるのを幸ひ、一寸行つて參りますとも何とも云はないで、其まゝスルスルと雲の中から辷り落ち、下界遙かに舞ひ下りました。



何しろ高い所から落ちたのですから、折角女郎花の毛氈の上に着いた時は、もう途中で目が眩んで、蟲の息ばかりです、白露は何事も知りませんでした、只雲の中よりも、毛氈の上が固くて、寢心地が惡いのに、やつと氣が付いて、目を開いて見ますと、黄色い毛氈だと思つたのは、粟の樣な粒々した所でせう、白露は的が外れて驚きました。

【露】まアこゝは何と云ふ恐ろしい所だらう、黄色い毛氈だと思つて來たら、これは又石塊の樣なものばかり、本當に地獄へでも來たのぢやないかしら」

と、さも心配さうな顔をして、露は獨りで淋しがつて居ますと、やがて枕頭で、ガヤガヤと、騷々しい聲が致しますので、思はずふり返つて見ると、これは又大勢の女が、互に手を繫ぎ合つて、聲を揃へ足を揃へて、頻りに謠ひ囃して居ます。

【女】女が原の秋の夜は、
　月はさやけく氣は清し、
　おきまどはせる白露の、
　色さへ秋の心地して。

と、如何にも愉快さうに謠ひますので、白露もツイ其拍手につり込まれて、浮かれて居りました。

話代つて月の都では、やがて夕方になりまして、お月樣にもお目覺になり、手を打つて白露をお呼びになりましたが、何の返事も御座いません、夫れも其筈で、露は疾くに下界に行つて、女が原で浮かれて居ます。

お月樣はそんな事とは少しも御存じがないので。

【月】露や白露、用事があるから早く出よ」

と呼びながら、方々お探しになりましたが、どうしても見付かりません、さては下界へ逃げたかと、月の鏡に照らして御覽になりますと、例の女が原の毛氈の上て、まだ騷いて居ます、露はお月樣のことなどは、最早や忘れて仕舞つたのでせう。

お月樣は一時は、どうしやうかと思案をなさいましたが、ア、云ふ不屆な露は、自分の傍に置いても、迚も末の見込みがないと云ふて、默つていらつしやいました、露はいゝ氣になつて、相變らず騷いて居ます。

お月樣は、夜の明けない間に、お天とう樣の所へ行つて、御相談をなされ、露はお天とう樣の御成敗で、勸當することになりました。

さて翌朝になりますと、お天とう樣は、例の美しい顔で、東の空からお出ましになり、夜は再び明るくなつたのです、これを見て露は急に驚き。

【露】おヤ大變だ、あまり浮かれて居たので、夜の明けるのが氣が付かなかつた、さアどうしたらいゝだらう」

と、右に左に、うろ付いて居ますと、お天とう樣は、威光のある顔をして、

【天】不屆な露め、最早や月の都へ歸ることは相成らぬぞ」

とお照らしになりますと、露は只その一言で、シユツと消えて仕舞ひましたとさ。(完)

家政

家政上より見たる日本婦人と外國婦人との比較

女子高等師範學校教授　宮川壽美子

私は昨年八月留學の命を了へて歸朝致しまして、今日で丁度一年になりました。彼地で留學中に感想を得ました事は是と云うて自分の理想に合した者はなく、寧ろ自分の理想は留學以前に比すると、爲に古くさくなつたかのやうであります。留學中は重もに倫敦に滯在して、餘暇を得て附近の都市へ旅行しまして、種々の階級ある人を訪問して、家政に關する智識を得んとに務めて居りました。元來私が洋行致します以前には、外國婦人は、凡ての點に於て發達して、其美しき風は、到底日本婦人の遠く及ばざる處であると信じて居りましたが、實際親しく接して、家政上などの手腕を見ますと、大いに自信と反して、寧ろ劣て居る點もあるかの樣に察せられます、無論國情も違い風俗も異つて居りますから、或る點に於て、長短のある處は免れぬ次第てありませう、何れの國に於ても、婦人は風俗を支配する原素てありますから、其一擧一動は、一家一國をして惡風を助長せしむるも、矯正せしむるも、偏に婦人の權内にあると云ふべき譯てありますから婦人の責務は餘程大切なのてあります、元來外國婦人は、趣味の範圍極めて廣く、殊に學者が多數で、其教育の發達して居りますとは、實に大したものであります、從て政事と商事とを問はず、堂々たる男子の談論と雖も、容易に咀嚼して其意を會得することが出來ます故に、從て其動作の活潑なる、實に華々しく感じられます、扨斯る立派な頭腦を有し居る婦人の家政思想は何うであるかと申しますに、凡て雇人任せて、自分は何も手にしない習慣で、即ちコックとか下婢とかに一任して、自分は全然關係しないと云ふ風であつて、家政と云ふとは極めて冷淡なやうであります、是は總ての階級を通じて、斯云ふ風ではありません、無論上流に位する富有者の境遇でありますが、斯る風は、勢ひ一般に行はれ易いものですから、男子の方でも、妻を娶るには、コックや下婢までも雇入れねばならぬ故に、其費用が中々莫大であるから、中流人士は、男女共に容易に結婚するとの出來ない有樣となります、又婦人の方では結婚後或る定日に物見遊山もなく、又下婢やコックなどが使はれぬ家などには、絶對に結婚を望まぬと云ふ風てありますから、自然と未婚者が多數ある譯であります、下級の婦人にありては義務教育を十四歳にて終り、爾後直に工女、櫃女等に雇はれ、相當の賃銀を得て、一家を補助して行き、相當の年輩に達しますと、他家へ縁付きますが、之も家政と云ふとは義務教育中は無論、其後修養すべき時代に於ても、賃金を得る職分に追はれて滿足なる家政の修養を得ざるため、結婚後の有樣は何であるかと申しますに、子供は出來る其衣服は自分に縫ふとが出來ず、仕立屋にやりたくも仕立代を支拂ふ資力もなく、止を得ず、古着でも買入れて、見すぼらしき風を子供にさせます、甚しきに至りては、肝心の兩親すら破れ目や綻び等を縫ふ術を知らずして、破れ着物を身に纏ふと云ふ慘状を呈する、加之食料品などは、手づから料理する素養がない、去りとてコックを雇入れるとは無論出來ない爲めに云ふに云はれぬ不經濟の下に、一家を支へ行くと云ふ有樣てありますから、貧乏は其度を增すばかりであります。斯樣な譯でありますから外國に於ては、結婚と云ふとは容易な業てありません。

吾國では一般に婦人は學問の素養ある者は少く、殊に男子と併び立ちて、堂々風發的の學理を談ずると云ふやうなとはありませんが、其代り、手まめ、足まめと申す美風がありまして、未婚時代に於て、既に一家を整理するに差支なき樣、兩親が心附をして呉れ、又生活の方法が家族制度でありますから、結婚するにも外國に比べては極めて簡單に爲し得られたるのであります扨其結婚後に於ける家庭は何であるかと申しますと、隨分種々の批評もありますが、兎に角嫁たる者の克己心によりて、圓滿に家庭を組成せられて行きます。それに自ら洗濯もすれば裁縫もする、炊燒もすると云ふ風で、多くは雇人などの手を借りませんで、自用を達すと云ふ習慣ですから、つま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

冗費もなく、安全に一家の經濟を少額の收入の下に經營して行かれる譯であります。此點に付ては、慥に外國婦人よりも日本婦人の優れる特色と信じます。其所で私の理想としては、頭腦は外國婦人の如くして、其以下は日本婦人の如くしたならば、實に立派な婦人が出來ると思ひます。

斯の如く比較して見ますと、婦人としての幸福は何れの方が幸福な身であるかと思ひますと、矢張り吾國の婦人の方が幸福であると思ひます。外國人は成程遊ぶ時は遊び、殊に高尚なる教育に浴する事も出來るし、一見多趣味の中に一生を終り得るゝかの如く思はれますけれども、之はつまり外見上の觀察にて、其內容を見ない者の云ふとて、婦人の唯一の希望は、容易に果すとの出來ない點がある、即ち結婚したくも、國の風習上又經費よりして、簡單に決行するの機を得ず、現に許嫁ある婦人でも、遂に一生を其儘送らねばならぬ不遇のともあります。又偶然結婚を爲し得るも、自分の子供は、長ずるに從ひて別居するがため、自分の意志通りに十分に子女を使用すると出來ずして畢に老先を吾子の手に多く掛らずして終るやうな風があります。之に反して、吾國の婦人は、國情の支配もありますけれども、兎に角、年頃になれば、相當に緣付かれる、而して結婚後は其事へる舅姑に對しては時に自分の意思に反した動作も爲さねばならぬともありますけれども、老いるに從て、吾子の長ずるを利するに偉大なる權力を有し、且つ之に奉養せしめて、老後の樂を得るとが至大であります。

以上の如き差異に就ては、種々の原因がありますけれども、其一としては婦人の素養として、家政に心得ると得ざるとにあつて、即ち外國婦人の如きは、家政以外に於ては、十二分の發達をなし、其動作の如きは、實に立派でありますけれども、自身家政の素養なきために、一家の組成上殊に主婦の實務たる、裁縫、料理等總て他人の手を借らざれば能はざる不具的素養も、又其一因たるを疑ひません、上流社會たる富裕者の身分では自由でありますけれども、中流以下にありて斯の如く他人の助を俟つが如きとは、我國にありては、實に國力の發展上は無論として、其消長に關係すると至大であると信ぜられます、幸にして吾國婦人は、先天的の特色たる、手まめ、足まめと云ふ美風を有し居れば、益々此美風を失はざらん機心掛けて、一家の組成上に缺くべからざる家政の思想を忽にせざる樣心掛るこそ肝要と思はれます。

或る經濟學者の談話によりますと、經濟上にいふ所の生產、供給、需要中、男子は生產の主體者にして、女子は需要の主體者たりと云はれたとがありましたが、實に此通りて、婦人は即ち需要者の主體でありますから、男子が工場にて衣服地を生產したり、又は農業によりて得たる食料品を供給するあれば、婦人は之を衣類に裁縫し、又は料理する等、當然婦人の職務であるとは、明瞭なる道理であります、故に婦人の思想如何に由て小にしては一家大にしては一國の經濟に影響する所極て大なると信じます。

外國に於ても、近時下級者には是非とも、家政の素養を與へねばならぬと云ふとが發見せられ、其修養すべき時期も義務教育終了二年前即ち十二歲より十四歲までに於て、適當の講習を與ふる必要を感じて、着々其機關を設備せられてあります。此設備の如きも、吾國の文部省の如き省內で、家政に關する當局が出來て其組織も婦人を以て之に充て、其婦人の頭腦から割出されて、斯學の發達普及を企てられてをります。

（完）

記者曰　女史は尙ほ本書以外に於て、多方面に渡り、頗る多趣味の談話をものせられたれども、限りある本誌に悉く蒐錄するを得ず。後日を俟て更に掲載する處あるべし。且つ文字の責はすべて記者にあり。

小說

蟲の音

堀內新泉

世間では五十年以來の洪水だと云つて騷いで居る眞最中に、我が職務に忠實なる矢吹新作君は至急を要する社用を帶びて、前後二度までも引續けて神戸に出張し、目下諸所に大破損を生じて居る東海線を經て、今夜の六時に歸京する筈。不斷夫思ひの細君は、心を盡しての待設、はや晩餐のお膳を拵へ風呂の湯加減も下婢には命令せず、淸潔に洗つた浴衣に帶まで添へて出し、幾度か時計を見る目の涼しさ、年齡の頃は二十七八、獨居の顏にも自から心の中の優しさを見せて、雪爲す肌に勝色の縮の浴衣、繻子に幽禪の晝夜帶、身體の擧動、氣の働、はや最う整然と世話女房染みて居る。

その中に時計は六時！住居は新橋停車場に近いので、「おや、最う程なくお歸りだ」と氣も欣々、胸の痛い程待つて居る所に、旅劚れた身の車にも乘らず、はや我家の門に歸つて來たのは、今日の日の下開山常陸に立合ひよいしよと組んでも、そんなに脆くは遣られさうにも見えぬ三十五六の大男、その顏は生々として苦昧走り、兩眼炯々烈日の如し。それと見るより優しい聲の主は玄關の式臺に飛んで下り、

「おや、お歸りなさいまし、嘸、まあ、お疲れ成すつたでございましやう

「いや、はや、今度の水には何うも……

「左樣で居らッしやいましたらうとも！

「折鞄をズッと渡し、靴を脫いで上に上がれば、八歲は娘、五つは男の姉弟が飛んで來て、

「お父さまお歸り」

と喜んで兩手に取附き、顏を仰いで、

「お土產は？

子故に長途の疲勞も忘れ、

「ワハヽヽヽ」

と廣い胸を反して笑ひ、

「今度はお土產はお生憎さま！まあ、まあ、奧に行きましやう

と二人一緒に抱上げて、

「お悧怜〳〵、善くお留守をして居ましたね、

我が子にかけては英雄も凡人たるを免れず、それてこそ又子は育つのだ。幾日目にか父に抱れた嬉しさに、二人は飛びつまた跳ねつ、喜び勇んで下りやうとはせぬ。細君は氣の毒がり、

「早くおんりなさいな、お父さまは太くお疲れ成すつて居らつしやるんぢやありませんか。さあ、貴方、何うかお風呂に

云ひ〳〵背後へ廻つて旅裝を解けば、例の物一つに成つて辨々たる腹を突出し、椽側傳ひ眞直にヅシ〳〵湯殿の方に

進んで行く。スグその後に尾きて浴衣を抱へて從ふのは、汗を流して進らせんと云ふのであらう。世の中に細君程好い物が何處に在らう。但し、それも心懸の善良なる細君に限るのは無論の話だ。

一人は程無く取つて返し、膳を設けてその前に、留守中に來た四五通の封書並びに端書など出し、今かと待つて居る所に、主人は手も足も茹てた海老のやうに成つて歸つて來た。

「おや、お湯がお熱うございましたか」

「否、丁度好かつた！はあ、どつこいせ」

と座蒲團に大胡座、團扇を取つてハタハタ煽げば、漆のやうな髭が右より左の方へと泳ぐ。やがて書簡をじろりと見たが、その中に混つて居た電報（これ丈は封を切つてあつた）を片手に取つてサッと擴げ、

「オカゲサマデタイマ一ドウブジニチヤク、カシマタミ」

と讀み終ると共に、無限の愉快を顏に見せ、

「アヽヽ、これで先づ安心だ！

何かは知らぬが非常な喜び！家長の一喜一憂は、家族の勇氣に影響する。まだ何んにも樣子は知らぬが、夫の顏に絕えず笑の色動けば、一人も自然と笑顏に成り、

「さあ、まあ、お一つ召あがれ、

いやと云ふ程冷して置いた麥酒の壜を手に取れば、主人はコップを起して滿々注せ、一氣にグッと半分盡して、

「アヽ今日の麥酒の味は又格別！今度はまあお前にも子供にも何んにも土產が無かつたが、乃公は一つ、土產以外の土產を持つて來たやうな氣持がして、何とは無しに氣が勇む！まあ、飲みながら話すとしやう、

主人は冷いのを二三杯引續け、

「他でも無い、今度二回の旅行中にあつた事だが、精しく話せば先づ斯うだ——」

（以下次號）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

避暑御旅行用品

●婦人携帶化粧箱　一箱九圓
婦人の化粧品一切を納めたる高尚優美なる箱入、便利はいふまでもなし。

●男女兩用化粧箱　一個三圓以上十圓
Dressing Case が旅行に役立つ事一度之を試みられたる御方の知り給ふ所なり。石鹼、齒磨、鏡、櫛、香水其他を納む、代價によりて數の多少あり。

●携帶食器　一個(甲)一圓六十錢　(乙)二圓四十五錢　(丙)二圓八十五錢　(丁)四圓八十錢
(甲)革製のサックにナイフ、ホーク、匙を納めたり。(乙)は之に增すに箸を以てす。(丙)は革製サックにコップ、ナイフ、ホーク、及箸、匙等を納め、(丁)のサックは籐製の優美を極めたるものなり。

●海水浴帽子　一個一圓前後
ゴム製の帽子にして、婦人が海水浴に頭髮を損せざる爲めに用ゆ。

●ゴム製垢すり　一個(小)六十錢　(中)九十錢　(大)一圓十錢

●空氣枕　白ゴム製一個(大)二圓八十錢　(中)二圓五十錢　更紗ゴム製一個(大)二圓三十錢　(中)一圓九十錢

最も高評なる石鹼と香水

▲米國スキフト石鹼　一箱(三個入)　五十錢
其價の低廉なると想像の外なり、これ三越が犧牲的提供による。香はロース、スミレ、カーネーションなど

▲佛國キセロル石鹼　一個　五十八錢
キセロルの名は佛國に高し、其殺菌劑を含ませたる本品は衞生上無二の必要品。

▲佛國ピノー香水　一瓶(大)　三圓五十錢
ピノー會社のポスカリナ香水は斯界に於ける第一位の品として、已に〳〵我國交際社會の喝采を博し居れり

▲佛國ロジヤガーレー香水　一瓶(大)　四圓五十錢
これ亦御馴染のロ會社の製なり。其アレバロースの名は夙に我國人の知る所、其價亦低廉

▲英國アッキンソン香水　一瓶(中)　一圓八十五錢
英國隨一の香水製造所中第一位なる同社の製品中、第一位なる評あるはホワイトローズなり。本品は　即是

三越 呉服店洋服部 調製の洋服(其特色は如何)

▲三越調製洋服の特色は?
(一)其柄合の嶄新なると
(二)其召工合の宜しきと
(三)其代價の低廉なると
に在り。其理由はいかに?

▲御客樣の便宜を圖るに出づるは勿論!
(一)洋服地を英國より直接輸入すると
(二)倫敦より招聘の裁方の從事すると
(三)非常なる大々的勉强を以てすると
に由る。試に一着を御新調遊ばしませ!

東京日本橋 三越呉服店

振替貯金口座番號三〇〇番

三越呉服府の發賣品は何れも品質の精良にして代價の低廉なるに限り申候。こゝに時節柄必要なるもの數種を御紹介申上候間。澤山御注文被成下樣奉懇願候。敬具

九月五日　三越呉服店　專務取締役

最新式寫眞撮影

手札形四枚一組一圓●キヤビネ形四枚一組二圓以上
普通、白金○プロマイド○白金メイブ○カーボン種々調製

最近の三越發賣品 カバン類各種

◎折鞄　一個二圓より十圓位
極めて輕便なるもの、極めて美麗なるもの、極めて格安なるものなど各種。

◎手提鞄　一個二圓五十錢より十圓位
合財形と稱する衣服入、又は三角形、丸形など各種。

◎服入鞄　一個十八圓より卅圓位
所謂 Coat Case と稱する衣服を入るる鞄、半疊形、丸形、兩疊形など、寸法は一尺五寸以上、革質は御望次第。

◎卷鞄　一個七圓五十錢以上
茶ヅック製にて毛布、羽根蒲團などを疊み込む爲めに用ゆ。

◎旅行用トランク　一個四十五圓以上
遠路の旅行には是非共必要なるものなり。

最新流行の雜貨

●髯保全器　一個　三十五錢
獨逸製にて Mars Binde と稱するものなり。之を用ゐ給はゞ、髯の容を損する事なし。宜なりカイゼル髯全盛の獨逸に於て大流行を極め居る事也。

●香水エッセンス　一瓶四十五錢より八十錢迄
これは香水の精なり、純粹なる香水なれば、この一滴を手巾に滴らせば優に一週間は其馥郁たる香氣は失する事なし。普通の香水は精とアルコールとを和したるものなり。定價は香氣の種類により異れり。

●櫛掃除器　一個廿五錢
これは婦人用櫛を掃除する者にして、其工合頗る宜。

●ジャックボール　一個卅錢(特製卅八錢)
これは室內遊戲の玩具ともなれども、室內體育上に必要なる用品として需要中々に多し。

●一森式坐椅子　一脚(甲)六圓五十錢(乙)七圓五十錢
これは疊込み得べき坐椅子にして、之に倚るも、之を延ばして安樂椅子の如く安樂に仰き伏すも自在なり。使用に三段の作用あり。メレンス製の座布團付きあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文苑

短文　編輯局同人選

思ひ出のまゝ（一等）　群馬　伏島たき子

愛國婦人の詞藻募集期限は、はやさしせまりつ。いかに、夏蠶、秋蠶をかふ業のいとまなければとて、いまだ、一篇の文もならず、一首の腰折草をも、つみえられざるこそ恥しけれ。人間は、いかなる時、いかなる場合にも、餘裕といふものなかるべからずと、いふをしへは、先頃の社說にありき。もしこの、己が胸中に、いさゝかなりとも、閑日月のあるあらば、そよと吹く風の音にも思を述べ、蟲のこゑにも心をすまさましものを。あはれ、全く、小人と生れたる身のはかなさよ。

評　いそがしき中にも斯くものせられしこそ餘裕ありといふべけれ

秋（二等）　福島　横川千賀子

自然の園生果しなければ、春は蝶秋は雁と其時々に或は優しき影を花に宿し、あるは美しき聲を草葉の陰よりもらして、人の心を慰さむらん。さる中に夏の蟬の餘りにかしましき、蛙のうるさき迄鳴き續けたる、さては日暮の、さらでも淋しき夕暮になき出たる、何となく心細く思はるゝに、それにもまして、堪へ難きは蟲のなく音になん。ひとり物思ふ窓の外に聞こゆる、月の夜は殊にあはれになん。されど、思へばあはれは蟲のみかは、人も物云ふ言の葉により、卑しと疎まれ、床しと愛でらるゝを、心せでやはあるべき、禍は口よりとぞ、古人もいひけんかし。

評　同感

雷　廣島　岡かつ子

しッとりとした風の吹き入ると思ふ間に、大空俄にかき曇り、すさまじく雨は降りだした。おどろ／＼に光りては鳴り鳴りては光る雷電の物凄さ。折から分家の丁稚長松は商用の歸るさ、素足のまゝたか／＼に尻まくり傘を斜に篠つく雨を押す樣にはせ過ぎし一刹那、鋭く閃く紫電は見る間もあらせず轟然と天地も裂けつらんばかり、アレーッと見れば長松の影もあらばこそ哀れ黑こげのなきがらぞのこれる。げにはかなきは人の命にこそ。

御地の大火は實に未曾有の出來事にて唯驚愕の外無之不慮の御災厄各位御家族中御怪我は御座なく候ひしや爾後萬事御不自由御困難の御事と同情に堪へず候略儀ながら茲に御見舞申上げたく如斯に御座候かしこ

愛國婦人發行所

愛國婦人會函館支部役員並に會員各位御許に

萩　佐々木信綱大人選

乙（第百三十四號追加）

今宵こそなき魂まつる墓參り萩の初花手折りてや行かん　青森　三上八重子

朝またきゑさあさりして庭つ鳥垣根の萩の露はこぼしそ　福島　松村すが子

しら萩の咲けるを見ればなき夫の昔をしのぶよすがなりけり　岡山　山崎薰子

妹のせはしき撃ともろともに共にたのしむ萩の花かな　青森　津島京子

こそはゝや友とかざして遊びしも我庭もせの此の萩の花　青森　大橋のぶ子

月すみて心しづけき秋の夜に清けくかゝる萩のひともと　岡山　山崎露子

萩の花うらふれ寺にさかりなり白露和尚のしたりかほなる　三重　四山數子

去年の秋友と植にし庭の面になくさめて見ん糸萩の花　青森　津島貞子

今宵こそ君となかめん置露に月すみわたる萩のかたへに　同　人

垣の面露の紐とく萩の枝の花に香のたつ庭の朝風　三重　莊司種

明け暮れの風にもまるゝ萩の枝の花まつほどのたのしさはなし　同　人

咲けは散りちりては咲きぬ萩の花いつをさかりと見えわかぬらし　三重　四山ひさゑ

月きよし虫の音ふけておく露は今をさかりの庭の萩原　青森　大倫りゆ子

花さけはたのしきものかさをしかの宿ろあとあり野邊の糸萩　三重　莊司種

ふりかへりみたりにけりな風の萩花のありかを見せかくしして　同　人

唐錦織なす四方の萩の花人に見せゝや宮城野の原　同　人

朝露にもすそぬらしてのはりこしかはのほとりにはきの花さく　岡山　横川明子

久々に友のみたちをとひくれは人まちかほに白萩の咲く　同　人

朝風に露のめくみのこほれつゝ清けく匂ふはぎの一本　同　人

一枝をこはるゝまゝに立許れとなほ折かぬる庭の秋萩　東京　土師利根子

風をまつ花のこゝろをしらせてん萩のほそ道たどる野守に　宮崎　野崎ゑむ

亡父の墓前に植しに萩の木ひとりさみしくほゝゑみにけり　廣島　竹入勇子

萩のむれおほき野中をわけゆけば別てすゞしき萩の上かせ　同　人

子等とゝも月夜に萩見かくれんぼう花にあらはれ花にかくろゝ　同　人

月きよく虫なく野べに、うかれてゝさけるもうれし白萩の花　岡山　四村長子

庭の面みちて色よき萩の花けふのまとゐのながめにやせん　靜岡　萩原さだ子

客人よしづが伏屋も秋されはおのづからなる萩の花垣　同　人

友どちとくつわならべて曳馬子に萩の花見ろ今朝のたのしさ　同　萩原ふみえ

近よりてふれなばちらん萩の花こゝろして吹け秋の夕風　同　人

わけとへば操なりとや腰衣萩の庵主のうらわかくして　東京　秋元小菊

露ふかき秋とはなりぬ我庭の萩も名殘のひと盛りして　同　人

露ながら折りて行かましはぎの花朝芝かへりのしづがこぬまに　山形　河部さゐ子

すぎ去りし眞人の手植し玉萩の盛りを見ても戀しかりけり　青森　佐藤國子

住すてしわが故郷をおとなへば今さかりなり露の玉萩　青森　佐藤鮎江子

古守の庭の白萩咲きたれど訪ふ人の影ぞなからし　東京　松田重子

雨やみて柴の庵りを出て行けは小萩こほれて月昇り行く　同　人

亡き妹がまかきに植し白萩は遮せまきまで咲きみたれしよ　同　人

古寺の垣根に咲けるはぎの花一枝乞ひて家つとにせん　大阪　俣野文子

錦より尙うるはしく宮城野は眞萩のはなはさきみだれつゝ　長崎　葛原梅香

萩の枝に露をむすひて春日野のはなのさかりは錦なりけり　同　人

君好む萩の花こそ盛なれいまやきませとまちてける哉　愛知　神林壽美子

心して折られば散らむこゝろして露にぬれけり萩のかた袖　東京　村岡菊子

流れゆるき小川の岸の萩の花妹が折りて只流しけり　青森　留目松子

時ならぬ露かとばかりなかむれは今をさかりとうつろ秋はぎ　靜岡　里見ゆう

奥村五百子刀自を懷ふ（百三十三號追加）

秀逸

五百年も八千五百年も君か名は月の桂に刻りてかくはし　青森　吉田安子

君は今世にはあられど眞心の花は御國にさきにほひつゝ　石川　小坂夏子

國のため盡しゝ君かいさをこそますらたけをにゆつらさりけれ　三重　小島駒子

ますら雄におとらさりけり呉竹の世にぬけいてし君かいさをは　京都　加藤千代子

殘されし刀自のかたみをあつめつゝなかくや子等の鑑とも見ん　北海道　河内りつ子

甲

なりあらは今一度と思ひきやかたろ言葉のかたみなりとは　青森　笹田正野子

親しくも君と語りしことの葉のいまはかたみとなるそかなしき　同　人

殘し置きし君がかたみのこのまとゐいく萬代も榮えゆくらん　同　人

いく千代の後もかをらん國のため盡しゝ君が高きいさをは　同　人

よろつ代もくちぬいさをは一すちにみ國を思ふ君かまこゝろ　茨城　福田喜代子

咲き匂ふやまとなでしこ見ろにつけうゑにし君の忍はろゝかな　同　人

くにの爲いさをゝたてし君こそはしでのたびぢも安けかろらん　京都　草場吉子

襟かさゝけてん先つこそしのへ國のためつくしゝ君がたかきいさを　山形　阿部さゝ子

月々のそのゝなでしこ見ろ毎に先つこそ思へ君がいさを　同　人

とつ國の人もくむらん日の本の小草にあまろつゆのしつくを　同　人

刀自のいさをゝたゝへて

ますら夫におとらてくにゝつくしつゝ君かいさをの高くもある哉　堺　大野鈴子

刀自のうつしゑを

男ましき心のみかはすかたまてとり出すら武雄に似たる君かな　京都　加藤千代子

いさをあろみ魂と誰も仰き見んたきもの煙ろ石碑のもと　北海道　新保みつ子

國の爲たてしいさをは世の人の鑑となりてかゝやきにけり　京都　加藤千代子

國の爲國のためとて盡されしそのいさをしは萬代まで　兵庫　河本久米子

君の爲心つくしの君が名は千年もゝとせくちせさらまし　石川　太田茂登子

なき君もうれしく見ませ植ましゝ花のさかりは萬代まで　愛知　市橋幾子

眞心の花をみ國に匂はせてはかなく散りし君そ悲しき　石川　小坂夏子

日の本の花の中なる花をしもいかに風の吹き散らしけん　同　人

なき人のそのおもかけの忍はれてけふのたむけに袖ぬらしけり　愛知　山内經子

武士のたてしいさをともろともにその名は千代の後に榮えめ　岡山　四村長子

さまでにも老木ならぬにつれなくも君をさそひし風うらめし　兵庫　下岡松枝

國の爲つくしゝ君がいさをしは月日と共にいよゝかゝやく　青森　津島はる

榮えゆくまとゐも君の心よりなりし初めか忍はるゝかな　愛知　石川南江子

この國をめづる女の日にますは君がのこしゝいさをなりけり　長崎　葛原梅香

おうなとて碗はとられどものゝふのいさめの道をひらかれし君　三重　莊司種子

つけても君のをしまろゝ散榮えゆくうれしきまとゐあるに　三河　石川頌世

此國の榮えと共に君か名はかきりも知らす世にひゝく　京都　渡邊豐子

國を君をむかへて物かたりいつかきかんとおもひし　群馬　伏島たき子

ものゝ國は日にましいよゝ榮ゆなり君やいつこにまもり　京都　波澤仲子

このまゝにのこす五百子のいさをしは代々に久しき　岡山　全田つるえ

世の中にますらをなからふみ行く道のしるへしてゆきにし人をした　堺

乙

このわさのすゝむさま／＼つたへまし言の葉かよふかの世なりせは　岡山　横川はる子

君なくは世をはうらむろ人あらん子にさきたゝれ夫にわかれて　同　人

質素なる鑑なる儉審りては出來なく仰せまもりて　三重　四山ひさゑ

居ます世に植ひらかれし女郎花いく千代までもさかえこそすれ　三重　莊司種子

面影のよしやきゆとも眞心のいさをは御代のかゝみとぞなる　同　人

茂り合ひ咲く姫ゆりの花を見てなほしのはろゝ君かおも影　仙臺　阿部鈴子

國を思ふかたき心はとこしへに根さしていよゝ榮えゆくらん　愛知　山田靜子

軍人みなたよりにや思ふらんきみの眞心國につくして　小石川　田中松子

塵の世を遠くはなれし君はしもいづくに夏の月を見るらん　三重　四山數子

數多年辛き旅路に身を盡し光ある實を結びし君かな　岩代　小川

つちかひし大和撫子ひろごりて名を知られたる奥の村かな　三重　四山ひさゑ

六十萬盟ひし中に牛數のしろを書きし人やあるらん　三重　四山きよし

もろともに御軍人をれきらひし君がうつしゑ見ては泣きつゝ　京都　池田美登

かくはしき績のこして散ろ花を思へはおもふ君のおも影　愛知　神林壽美子

をみなとていかでなけかん靈の君のいさをは千代のかゝみと　京都　山本千代子

露の身はあはれはかなく消ゆるとも朽ぬは君のいさをなりけり　青森　大橋八佐子

國をめづる女のまとゐくみたてし五百子のほまれ千代に殘らん　東京　岩根登志子

身はたとひ草葉の露と消ゆるとも立てしいさをは千代に　仙臺　伊藤俊子

かよわくも國のしすゑ強めけりいく千代までもいさをのこして　山口　内藤まさ

男の子にもまさるおうなの御こゝろは外國までもつたへこそすれ　三重　莊司種子

國の爲つくしゝ君のみかげに立つる人々いかになしまん　岡山　四村長子

年々に花さきまさんいさをしを立てし君が身こそなけれ　兵庫　下岡松枝

世の人のさゝけまつりし言の葉にいよ／＼かをる君がいさをし　青森　三上八重子

國の爲をしまるゝ散この君のほまれは千代に朽せざるらん　愛知　石川南江子

敷島の大和心の幾千代も牛が淵瀬に名をとゝめけり　山口　高山露曉

誰もみなあふがぬはなし國めづる五百子の君のたかきいさをし　下野　岩根津奈子

思ひ出ぬ日とてなかりき老の身に外國までの菅の編笠　對馬　大塚八重子

詠君たちに告ぐ

豫て募集中の歌詞「奥村刀自を懷ふ」に就ては尚續々投吟者あるにより締切期日を九月末日迄延期す

言の葉の露のなかれをくみてこそいよ／＼たどれ敷島の道　青森　津島たま

愛國につくすいさをし身は露と消ゆろら名こそ世になかれけれ　備前　森島古野

魂は日本男の子におとられど身の病にはかつよしもなし　茨城　綿引馨子

外國もとゞろかしけん君が名はよろづよふともくちせざらめや　京都　草場吉子

うつし世にいさをしたてしかの君は今ぞエデンのそのにあそはん　長野　奥貝はみ子

御代の爲みくにの爲と身をすてゝいさをたてし君そたふとき　堺　大野鈴子

くちぬ名と君がかたみの文机をおきならべてや語りつたへん　北海道　小野寺ちとせ

なき人のかたみとなりぬこのまとゐいよゝ榮えて君もうれしと今日は覺ゆらん　岡山　山崎露子

ありし世を思ひ出てつゝなり／＼に涙にくれの降りし袖　北海道　足利つゆ子

秋こゝとに匂ひこぼるゝ女郎花みろにつけてもぬるゝ袖かな　愛知　市橋幾子

國の爲盡しゝ君がいさをもてやまとをみなの名も知られつゝ　岡山　山崎露子

國の爲つくしゝいさを聞くたびになき君をしも思ほゆるかな　同　人

君が名は五百とはいへそいさをしは千代萬代に殘りける哉　茨城　綿引馨子

いく度も軍の庭をめぐりて君はをのかゝみなりけり　同　人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

觀月
大口鯛二大人選

天　福岡　松村すか子

歸りゆく友見送りの垣の外にしはしたゝすむ秋の夜の月

評　人を送出して柴門さしこむると佇立して靜を見送れると其の情の厚薄如何

地　群馬　伏島たき子

月はいま高嶺の雲をはなれけり友とかたらふまとをてらして

評　うるはしき友どちの閑を月も亦讃めるに似たり

人　群馬　木暮千代子

おもふ友むしろにみちて一人たにかけぬ月見はうれしかりける

評　圓滿なる觀月の實げに恥ふ事なかるべし

甲部

いにし年都をとひて兄の君とあたごの山にみしもこの月　石川　齋野すて子

思ふとこまく／＼むれにみつ秋のつき見ゝ袖のうら寒くして　京都　花輪よしの

風かよふかすみがうらの濱まくら月みるよこそたのしかりけれ　茨城　磯田喜代

遊多き池のほとりに住む友をこよひはとはん月みかてらに　福島　飯田よし

幼子のうさき／＼とうたひ初め嬉しにきはし秋の夜の月　東京　中隈富士子

夫も子もうちそろひつゝまとゐして月みるはかりたのしきはなし　山口　藤田貞子

うからやからひとつところにまとゐしてさやけき月を見るぞたのしき　兵庫　櫻井嵐子

ともすればなみたうかへてたをやめのつきみなからに何おもふらむ　大阪　大谷たか子

出るより入るまで見てもあかぬ哉今宵の月に歌詠りして　福島　横川かれ子

おはれつゝ母のゆびさすかたを見てをさなき心に月をめつらむ　山口　國佐春子

露ふかき草のいほりに衣うつ賤が手ふさに月やとりけり　東京　麻布敬子

月見つゝ時の移るも忘られて友とち階る高樓の上　愛知　下郷きみ

夕風に稲葉そよくあせ道にたもと吹かせて月見るや誰　青森　大橋のぶ子

眺むれば已がこゝろにさま／＼のかけもうつろふ秋の夜の月　山口　末田貞子

月みれはかつなくさむとおもひしにいよ／＼ぬるゝわかたもと袖　同　末田竹子

庭廣きわかふるさとをしのはるゝくまなくてらす月をなかめて　三重　階戸つれ子

みやまへの秋は月こそをかしけれ高嶺に谷にかけはかはりて　大阪　金田ひさ子

おはしまに立ち舞ふ君か袖さへもゆかしく見ゆる窓の夜の月　東京　渦川てつ

いさの友よちりもかゝらぬ秋の夜の月見なからに歌かたりせん　大阪　今井糸子

月見んと契りし友をまちわひてひとりに野をかなてつるかな　靜岡　山内經子

はし居して月見る空中の心には世のうき事もわすれけり　同　萩原さだ子

さやかなる月をみるにも思ふかなかくそありたき人のこゝろも　愛知　林すみ子

去年は雨ことしはいかにとまつかひのありて今宵は月見る哉　同　横井初子

さし昇る沖の月影きらめきて貴むの波のいとはろかなり　靜岡　小川錦子

雛よりもれてかたらふ聲すなり翼も月見ぞ月なかめん　青森　津島とし

見る人の心々に映るらん月の光はかはらされども　東京　土師利愼子

露花のそれにもましてたのしきは月見る人の心なるらむ　同　中山正子

宵の菜をよみかはしつゝ友とちの月見のまとゐ嬉しかりけり　青森　三上八重子

ゆたかにも實のれる小田の庭のまとにれかふことなき月を見る哉　東京　小林芳子

秋風に心のちりをはらはせてくまなき月を一人見る哉　福岡　稲池しづ子

たまあへる友と集ひて虫の音をきゝつゝ月を見るそたのしき　山形　阿部さゐ子

秋の夜の月のひかりのさやけさにこゝろの雲もはれわたりけり　京都　池田美登

反古はりの窓にもたれてまびしげに月見る人の横やつれたる　青森　吉田安子

すみわたるこの月かげを見るにつけまづしのばるゝふるさとの庭　東京　加藤みよ子

夏休みのこりすくなの今日今宵むもふどち見る故郷の月　三重　西山ひさゑ

母上のむかしはなしをきゝながら月を見る夜ぞたのしかりける　大阪　保野文子

ふるさとに母とめてにし月影を桐の葉蔭に一人眺めぬ　石川　小坂夏子

乙部

遠洲濱名の湖に名もたかきたて山寺の月をみる哉　靜岡　萩原ふみえ

澄渡る月を愛てつゝ佐の江に今年も友と歌詠みかはす　東京　松田重子

さゝ波のよする濱邊をゆきかへりさやけき月をみるぞうれしき　鹿兒島　藤野鍵子

さやかなる月の光にふりすてし故郷しのぶ寄宿舎のまと　北海道　安藤きみ子

内縁にテーブル寄せてはらからと滿ちたる月にむかふたのしさ　青森　留目和歌子

いろくつも浮てみるらむ雲もはれて澄みたる池の上の月　愛知　下郷すゑ

うちむかふ人の心や千々ならんみ空の月はひとつなれども　青森　大櫃入佐子

澄み渡るこよひの月を見るにつけ人の心もかゝれとぞ思ふ　青森　佐藤園子

とふ人はたえてあられどたゞ一人秋の月夜をめでにける哉　神奈川　鈴木まつ子

夏やすみ都の子らもかへりゐてやから月みる今日の樂しさ　三重　小島こま子

みるうちに影隱れてうな原のなみにたゆとふ月のいてかた　仝　中島千萬子

學び屋に夜每眺めし月影か我家の軒に今宵見る哉　福島　横川千賀子

くもりなき御代にならひてはれわたるこよひの月を見るぞうれしき　靜岡　市坂清子

久々に訪ひし妹がつま琴をきくもうれしき都の夜の月　岡山　山崎露丁

思ふどちかたりあひつゝ立出てのきは涼しき月を見る哉　京都　渡邊時子

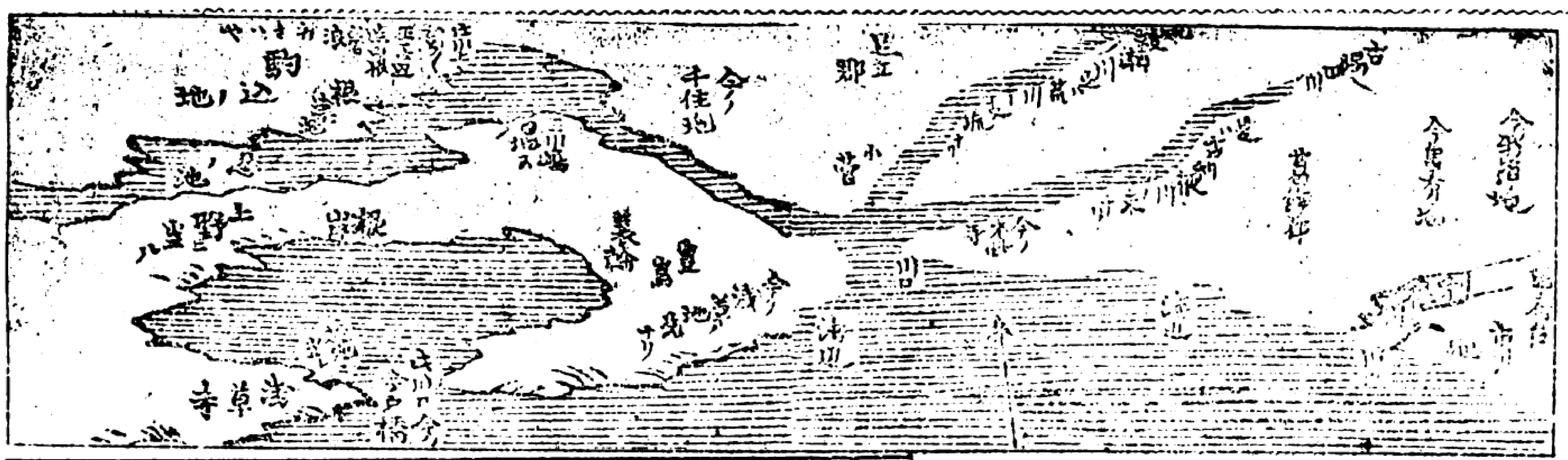
まとゐして月を見ながら母君は旅にある背のうへとはす也　岡山　武田須磨子

この月に秋のあはれやうたふらんさえしみ空に府詩高し　石川　小坂ふじ子

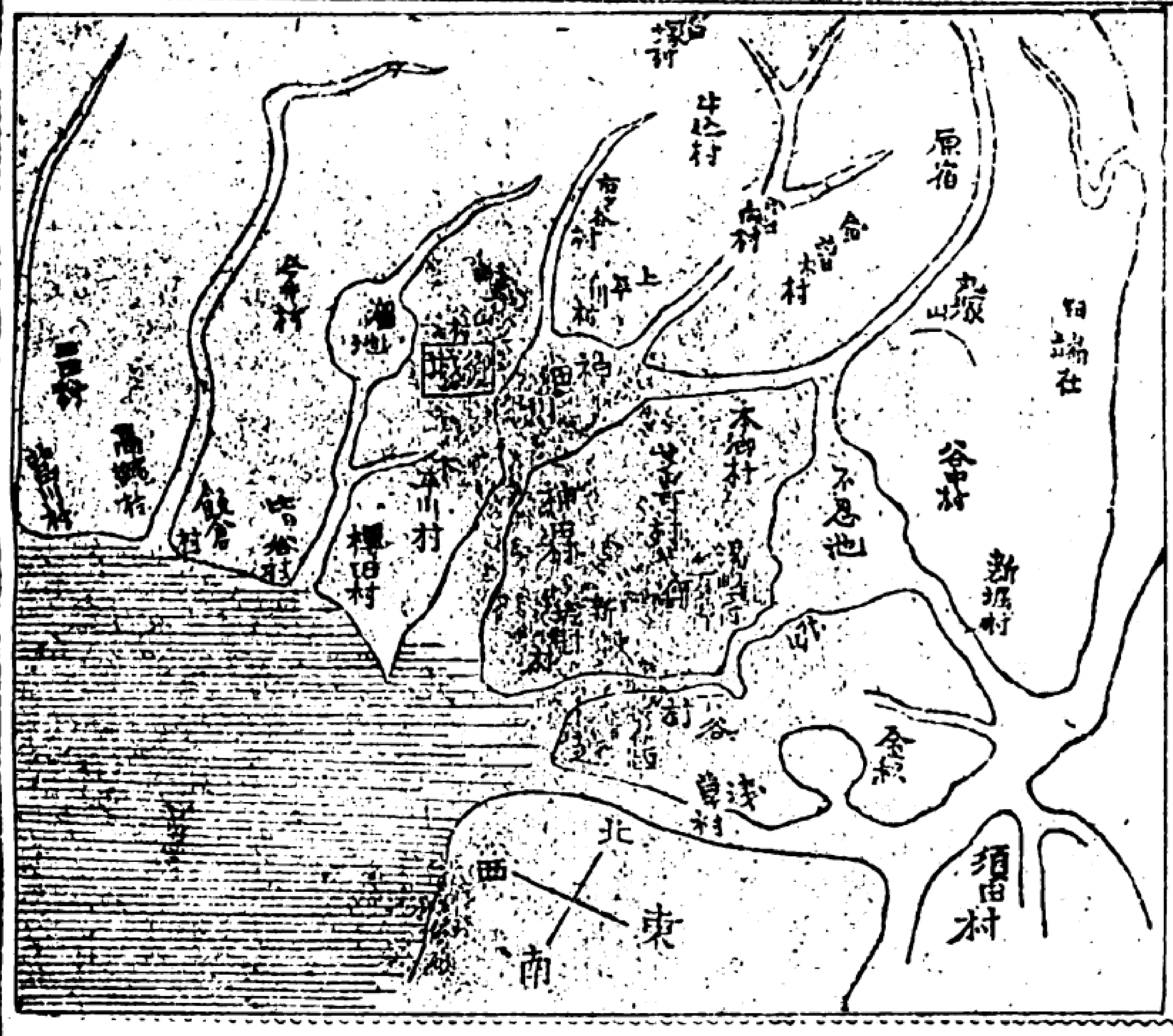
（つゞく）

●東京市浸水參考沿革略圖

其一



其二



▲其一　八百七十年前の江戸

此圖は大江戸圖說集覽と云ふ書物に載つてゐる世に所謂長元圖と云ふのです長元とは後一條天皇の御宇で今を去る八百七十八年以前です東京の地圖としては最も古るいものであります

△其二　太田道灌時代の江戸

此圖は後花園天皇の長祿年中に於ける江戸の圖で恰度太田道灌が江戸城を築き終つた年で今から四百五十年前に相當する、以上二圖を見ると今回の水害個所は其後埋立てた所だと云ふことが分ります

水害御見舞

今回稀有の洪水にて不時の御災厄に遭遇遊ばされ無かし御困難の御事と奉遠察候爾後幸ひ天候順に復し減水せし事とは被存候へども百事の御不便はいかばかりならんと誠に御同情に堪へず候兎角出水後は各種の傳染病等流行の般鑑も有之候まゝ折角御注意御自愛專一と存じ候右乍略儀誌上を以て御見舞申述度如斯御座候かしこ

明治四十年九月五日

愛國婦人發行部

出水各地本會々員幷愛國婦人愛讀者各位　御許に

秋季雜題
内藤鳴雪大人選

天　東京　齋藤定子

秋風や衣紋つくろふ夕ごゝろ

地　東京　大澤かう

狹衣に柳の古葉散る日かな

人　東京　鶴岡とく子

小春日の淡路へ通ふ小舟哉

○

雨戸繰る十年の庭や今朝の露　青森　吉田安子

虫なくや瓶の芝の其邊り　神奈川　櫻井柳子

進み出て歌讀らせん松の月　東京　秋元小菊

萩よきに讀み迷ひたる野邊哉　愛知　丹羽すゞ子

少女子の庭もあらはす[illegible]の露　靜岡　小川すゞ子

故郷へ着く日は暮れて雁のなく　鹿島　中川龍子

ぬひ針を失ふ今朝や秋の風　三重　莊司種

かしこみて歌よむ月の御筵かな　三重　西山ひさ子

香に曇る有明月や菊の花　佐賀　末綱數子

琴の音のそれも昔や嵯峨の月　東京　加藤霽子

◎砂の穴

英吉利のスティブンソンといふ詩人は、小兒好きて、小兒の思想や感情を歌つた詩が頗る多い。『童幼歌苑』といふ詩集の中に『濱邊にて』といふ題で、「私が濱へ行つてゐたら、砂を堀れとて木製の鋤を人が呉れた、堀つた穴はコップのやうに開いたが、どの穴からもどの穴からも潮水が湧き出て、まう湧き出ることの出來ぬやうに一杯に滿たしてしまうた。」といふ意味の、一節四行、二節から成つた短かい歌がある。小兒の思想や感情も素直に出てゐるが、これを大人が讀んで見ても砂の底から堀つても堀つても湧き出る潮のやうに、何となく盡きぬ面白味がある。

（つゞく）

和歌俳句短文新體詩募集

回數	種類	題	選者	締切期限	發表月日
四〇	新體詩	隨意	編輯局同人	九月廿日	十月五日
五四	短文	仝	仝	九月廿日	十月五日
三三	俳句	秋季雜題	內藤鳴雪	九月廿日	十月五日
六三	和歌	庭草花	大口鯛二	九月廿日	十月五日

附記　一、二、三等當選者には例の通り扇子其他の物品を贈呈すべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

◎女鉢の木（第四席）

大島光利

兄善左衛門の遺志を繼ぎ水戸治保公へ接近したる秋は、天へも昇る思ひ、治保公は中山へ御沙汰あつて秋を侍女として召抱へられました。元來水戸家の法として武家の娘ならでは侍女には致さぬ定めてあるに、農民の娘なりと云ふ秋を、御召遣ひになされたは、破格の御採用でありました。治保公は秋を二なきものと御愛しになり、御寢室の次の間に秋を差置かれて、所謂番人に致し置かれまする。時しも天明五年九月の中旬、例の通り治保公は御寢室に於て御睡あそばしましたが、秋は例の如く次の間に控へて居ります。真夜中と覺しき頃、治保公は圊に御出になる、秋は塗骨に繪絹を貼りたる雪洞を持て御案内をいたす、用を御達になつて手を清め、雨戸を排いて御覽になると、今宵は十四日、月は中空に澄渡り、恰も銀盤を懸けたる如く、千草にすだく蟲の音は、實に天然の音曲とや云はん、治「秋ヨ宜い月であるノ」秋「仰の通り一點の雲もなく冴渡り居ります」治「昔より月には詩歌とも結構なものが數々ある、秋其方も一首いたせ」秋「仰せにはムいますが、月は毎月變りなく照渡りますが、人の一生は定めなく、唐人の張若虚の時に「江畔何人か初めて月を見る、江月何れの年か初めて人を照す」とムいます、此月の冴わたり居りますを見るにつけ、今にも叢雲の出て來て光を隠しますやうな事がありますと、折角の眺めも其甲斐なく、御仁慈ある御政事も、悪人の爲に、末世に至るまで、上様は勿論總ての御役人方も悪しき名を得るやうになりまするると、仔細ありげな一言に、治保公はジツト御考へあそばされたが　治「秋、其方は全く上總の者か」秋「私は先達て田沼山城守様を桔梗の間に於て斬ましたる佐野善左衛門が妹秋にムいます」治「何と申す、善左衛門の妹秋、シテ又如何なる願ひあつて當家に入込みたるか」秋「天下の大事と兄の遺言に因りて恐れをも顧りみず君側に罷出ましてムいます」治「予も只者でないと思うて居たが果して予が推察誤らず佐野の一族であつたか、秋……善左衛門の認めた書類てもあるか」と問はれて取出したるは田沼父子の罪狀を認めたる佐野の訴狀、治保公は其儘懐中遊ばされ、其夜は御寢になりまして翌日人なき折を待て御覽になると、田沼の專横が一々證據を上て認めてある。田沼が德川家の財政を亂したのは事實てムいます、とは云へ大才子で中には善い事もありました。然し惡い方が多い、船税と云つて船から税を取つたのは田沼が元祖てムいます。諸役人に賄賂は盛に行はれる、御目附千兩長崎奉行千兩と云ふ相場がある、千兩づゝ賄賂を田沼に贈れば御目附にもなれる長崎奉行にもなれる、甚しきは七曜星の田沼家定紋の燒印を据ゑたる臺を敷て置けば、其上で賭博をしても決して捕縛にはならぬ、此一事を以ても田沼の勢力の廣大であつた事が分解ます。因に依て御話をいたしますが、或人が田沼に賄賂を贈つた中に京人形と書いた大きな箱がある、蓋を排いて見たら京都の舞妓が極彩色て目のさめるやうな美しい衣類を着して、ヌーと出ましたには田沼も驚いたさうてムいます。其頃奥御祐筆を勤めた船橋勘左衛門と云ふ者がありました、然も組頭て今日から云ふと内閣秘書官長の資格てあります。此人の家來て大木と云ふ者が非番の節淺草觀世音へ參詣に行につき、一日御暇を頂戴いたしたいと申しましたとき、船橋が　船「歸りに善四郎て仕度をしてまゐれと、八百善の切手を與ました。大層悦んて同僚の三井何某と一所に淺草へまゐり、歸りに八百善へまゐりました。只今ても繁昌いたして居りますが、其頃善四郎と云へば此上もない料理店てありました。結構な坐敷へ通る、床には其頃の大家文晁の富士越の龍の一軸、時も四月下旬室咲の白の牡丹が宗丹の花瓶に挿てあり、料理は無論會席で吸物は脊切鱠にジユンサイ、燒物は初松魚に生り節インゲンの附合、汁はハヂキ芋に鱠の下し身、椀盛は鱸に大しひたけ、鱠は甘酢あへに脊ごし鮎、口取はむかごの鹽煮に燒鳥、香の物は初

茄、御酒は灘の一本氣、其頃は菊正宗だの櫻正宗はないが、決してアルコールの混精酒などは勿論ムいません、其他に善盡美盡たる料理がドシ／＼出て來る尤も主人から貰つた切手を渡したので、大木に三井は命限り根限りと飲だり喰たりしたが、限ある人間の胃て流石の二人がモー一口も喰られない、處へ此坐敷へ來ましたは主人の善四郎　善「御料理はモー之て宜うムいますか」大「イヤ澤山／＼モー此上は喰られない」善「夫ならば御後から御邸へ持たして差上げますが澤山御入用もムいますまい、其他は失禮てすが御目録にいたしませう」大「何か主人土産をくれて其上目録を與るのかへ」善「然樣てムります」大「有難い貰つてまゐる」善「夫では然う云ふ事にいたしますと、是から御膳籠に澤山の料理を入れ、他に二十五兩通貨で持つてまゐりました、大「全體アノ切手は何程の切手であつた」善「五十兩の切手でございます」ウーンと二人が驚いた、新しく調理た料理は八百善の若い者が持つて邸まで送り届ける、船橋勘左衛門に二人より右の事を云ふと、然うかソンナ物てあつたかと云ひましたが、實に此一件を考へても田沼の執政時代は賄賂の盛んであつた事が知れます。秋が必死を期して願ひ出したる書面には十一ケ條田沼の惡事が認めてあります。水戸治保公は直に登城：此段將軍家に申し上げ、兩三日過ると田沼は一萬石に減地の上、老中を免ぜられ、雁の間入を申しつかる、其頃の落首に、

見は斬られ孫は喰れる戌の歳

秋は是より尼と相成り、兄善左衛門の菩提を弔らうたと申します。此講談は之にて大尾といたし、更に趣味ある物を申し上げませうと存じます。（終）

○西山公の壁書

一、善は樂の種、樂は善のたねと知るべし。
一、主人と親は無理なる者と思へ。下人はたらはぬものと知るべし。
一、子ほど親を思へ、子なき身に他を見て手本とすべし。
一、掟におぢよ。火におぢよ。知慧なきものにおぢよ。
一、欲と色と酒とは、敵と知るべし。
一、小なることに分別せよ。大なることに驚くべからす。
一、九分はたらず、十分はこぼるゝと知るべし。
一、分別は堪忍にありと知るべし。

▲▲▲▲▲▲▲▲

今般左の通り移轉いたし候

大日本女學會事務所移轉廣告

東京青山原宿二百十番地（青山四丁目電車停留場より僅に三丁許り）

大日本女學會

電話新橋千八百三十番

▼▼▼▼▼▼▼▼

ローヤル水の外に斯の如き多くの特色ある化粧水ありや？

(1)

毎朝洗面の際數滴のローヤル水を湯或は水中に投ずれば「ハードウヲーター」（硬水）を「ソフトウヲーター」（柔き水）となし水の爲に皮膚を害ふの恐なく其芳香は快感を與へ腦の働きを敏活ならしむ

(2)

白粉を塗らんとする前にローヤル水の少量を白粉下に使用せば恐るべき白粉の害を防ぎ白粉ハゲ又は白粉の爲に顔に「ヨゴレ」を生じウス黑くなる等の憂なく能く其の美を保つ可し

(3)

マツサージクリーム使用後又は顔面マツサージ施術後にローヤル水を用ふれば其効力一層顯著たり

(4)

外出せんとする際數滴のローヤル水を使用せば日にやける事なく又汗のために白粉のハゲる事もなく特に汗により生ずる一切の病を未然に防ぐ故に旅行家避暑客には必要缺ぐ可からず

(5)

シエービング（顔剃）後ローヤル水を使用すれば最も快く且剃刀負け其他之に元由する皮膚の疾病を防ぐ最も愛す可きコノノレリシヨン（皮膚）となる

改正定價大五拾錢中卅五錢小廿錢郵稅八錢郵券代用一割增 販賣店は全國到る處の化粧品洋物小間物賣藥店にあり

發賣元　東京銀座壹丁目　佐々木商店　電話新四七二番　振替三二二〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町
株式會社 十五銀行
電話新橋 三〇番 一五三〇番 三一九三番

同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇二番 三二七四番 三五〇八番

一定期預金 六ヶ月以上年五分[illegible]
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同[illegible]

色を白くする

定價 大瓶 金拾五錢
小瓶 金拾錢

貴金屬寶石袋物類

美術品袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
電話浪花二五六九番

廣告

御髮あらひに就て御婦人方に告げる

目下歐米漫遊中 新派女俳優 川上貞奴述

日本でも西洋でも御婦人方の美容いのは御髮の艶の良く丈の長いのが第一だと存じます此良い髮を持ち又活潑な精神を持ちますには御髮を洗ふ事に御注意が肝要かと思ひます之れを怠りますと毛穴が塵や垢の爲めに塞がれ終に氣鬱、ヒステリー、頭痛等種々な病氣を醸します私は先年歐米を巡遊致しました節此事に付き良く氣を附て調べて見ましたが西洋婦人は少さい時から屹度一週間に一二回は頭髮を洗ひますのが習慣でありますから自然に血の順環もよく精神も羨しい程快濶なので御度ます併し日本の御婦人方も決して御髮を洗ふのは御嫌ひではない私なども髮を洗ひますと氣もサツパりとして誠に心地のよいものですから度々洗ひたいとは存じ升が何分是迄は鷄卵だとかフノリだとか又偶に洗粉はありましても輕便な良いものはなく手間が掛りますからツイ〳〵ヲツクーになり十日が廿日となり後には一ケ月に一度も洗はぬ様な無性になります所が西洋では誠に輕便な髮洗粉が發明されて居ります例令ば一寸朝など顏を洗ひます時日本などは髮結さんを待たして置いて僅か一二分間で髮を洗ふ事が出來ます私はそれを見ましてドーカこんな髮洗粉を用ひて日本御婦人方の御髮の洗方を改良して見たいと存じまして佛國から新たに此粉を輸入いたさせ地球堂田中方よりマダムと命名し内務省東京衛生試驗所で御試驗の結果髮洗ひに用ひて無害の御報告書を頂き賣出させました御婦人の頭髮の臭いのは御交際上衛生上誠に其方の耻で御座いますから皆さんドーカ早く此マダム粉で御髮を洗て頂きたいのですそれは〳〵少しも毛を惡くせず毛を切らず毛をフツクりとして艶を出し僅か二三分間殊に微温湯で洗へます私は妄言は申しません御試し下されば直ぐ御分りに相なります

可驚一分間の高等髮あらひ
マダム

東京市神田御成道田代町
原料直輸入日本一手發賣元 地球堂 田中丹治
電話下谷一三九九 振替四五三九

●當分輸入原價を以て販賣す早が御徳

●壹回の洗料わずか貳錢内外

賣價 袋入凡八回分洗料 金拾五錢送賃四錢
鑵入凡十二回洗料 金廿五錢送賃四錢

東市京内各小間物店賣藥店其他全國に賣捌あり若し無き地は賣價へ送賃を添地球堂方へ振替貯金又は爲替にて送金あれば急送す

○色白く艶をだす最良之化粧石鹸（大形廿錢小形拾錢）

松澤ホーサン石鹸

○到る所に販賣す（にせ物）あり松澤ホーサン石鹸と御買求を乞ふ

東京本石町四丁目、芳香藥種問屋
ムスク香水本舗
松澤常吉
（振替貯金四四四七番）

ホワイト印裁縫ミシン

●構造堅牢●使用便利●運轉圓滑●外觀美麗

輸入元 東京神田今川橋際 横濱市元濱町一丁目 古屋商店

大日本淑女學會

第五回新學期開始 此際入會者に限り入會金全免すべし！

▲御自分のお宅に居つて高等女學校の課程を講習しやうとする方は、本會におはいりなさい
▲本會は文部省令に據り正則完全なる女學講義録を發行します。講義の親切丁寧なことは云ふまでもありません。新式の教授法によつて獨習に最も便利な方法をとります
▲卒業は二ヶ年で、會費も低廉であります
▲會員には講義録の外「姫百合」と云ふ美くしい體裁の、利益になる女學雜誌を毎號無料で進呈いたします

●詳しい規則書は申越次第差上げます ●東京神田駿河臺 ●大日本淑女學會（電話本局三千四番）

本會の講義録
▲大版三百頁優麗なる冊子
▲講義平易にして興味多し
▲各科講義の程度一定せり
▲各科皆聯絡し組織的なり
▲講師は專門女子教育家也
▲科外講師は博士學士卅家
▲毎號科外講話を附録とす
▲絶潔高雅の家庭小說あり
▲會員の質問は直に解答す
▲學期毎に修業證書を與ふ
▲講義録は貳ヶ年完結とす

巖谷小波君沼田笠峰君竹田直人君木村小舟君 合編（現代諸名家題詠及序文）

明治少女節用

全一冊三六版美裝金模樣入高尚華麗
正價八十五錢 郵税八錢

紙數六百貳拾頁、彩色口繪十枚、挿畫四百餘圖

現代幾萬の少女諸子の愛友たるべき目的の下に玆に本書出づ。記事は高等小學乃至高等女學校生徒に了解し易からしめ、普通教育の各科に亘りて詳說し、加ふるに遊戯、娯樂、お伽噺を交へ、約四百餘個の密書は記事を補ひ、口繪の彩色石版又頗る斬新奇抜のものたり。何人も本書を購讀すれば、啻に日新文明の學術を會得するのみならず、亦以て家庭團欒の愉快を增進するに足らん。

東京 博文館 本町

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四〇一番 浪花四一五二番
預金利子
定期預金 六ヶ月 年五分
當座預金 百圓ニ付日歩八厘
別口當座 同日歩壹錢
全國送金無手數料
其他銀行一般の業務御便宜取扱可申候

宮内省御買上ノ光榮ヲ得タリ
第二共進會 銀牌受領
香油 パーレル
日本發賣元 東京平尾賛平商店

第廿七回 産科婦人科講習
十月一日ヨリ十一月三十日マデ
東京日本橋區濱町三丁目七番地
楠田病院

正札附陳列場
西洋小間物
帽子各種
婦人用小間物
中久商店
束髪用具
内外化粧品
玩具文具
東京神田小川町通り
裏神保町一番地

登録商標
プレスト
色白く肌を滑らかにす
定價 袋入三錢 小罐入七錢 五錢 大罐入十五錢 大袋入十錢 特別大罐壹圓
あらひ粉
本舗 東京牛込 山本玉川堂

警察究内御入用ナレバ廣告切取御申込被下度候

東京勸業博覧會一等賞牌受領
東京市日本橋區横山町壹丁目拾六番地
天野卯兵衛商店
電話浪花一六四三番
振替貯金口座四九七〇番

登録商標

代價は……貳錢五厘より拾五錢まで
玉川は(殺菌力に富むでゐます衛生上最必要の品です
玉川は(經濟上徳用です些少の粉で何枚も洗へます
玉川は(絹毛織物綿布等を洗つて地質がいたみません
玉川は(手があれさゝくれの出來る心配がありません
玉川は(石鹸こ違ひておちがよいから汚が還ふございます
玉川は(洗ふに容易で奇麗になり手間がかゝりません
東京日本橋區本町三丁目(電本一七九四)
發賣元 合名會社 玉屋商店支店

五十八號 東京新報 價郵共卅六錢

▲米國發明 金と男に對する運命前知法
▲性慾的心配除却法
▲嘉落的交際法 ▲催眠術魔術 治療申込手續無料
東京赤坂區仲之町（女書生雇入度） 博士書院
▲無代進呈▼ 記憶力増進案内▼掲載の雜誌 限郵税要貳錢

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎 婦人科 毎日午前診察 産科
副 醫學士 久保徳太郎 婦人科的外科 外國留學中
副 醫學士 田代謹二 婦人生殖器病 泌尿器病及内科
◎施診 火木土自午後一時至二時 一般科 火木土午後診察
婦人科産科 榊病院
麹町區三番町三三（電話番町三九五）

産科婦人科小兒科
牛込區北山伏町三番地
平澤産婦人小兒科醫院

産婦人科小兒科
四谷區本村町三〇
水口醫院

小兒科院
神田錦町三ノ四 本電二三三三
小原頼之

産科婦人科専門
神田區松永町廿二番地（和泉橋通）
殊ニ姙娠鑑定の如きは一ケ月の姙孕と雖ども確實に診定す
木下醫院

●内科小兒科生殖器科
●新式鬱血療法 腫物、痔疾部ニ應用、切ラズ痛マズ速治ス（入院隨時）
牛込區タンス町三一 電番三八八
河村生春堂醫院

小兒科診察
特ニ乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病
獨逸新式種痘 日曜午前
拙者儀久シク獨逸伯林大學ニ於テ小兒科專攻歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
東京日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

産科婦人科専門
診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

○院長 ドクトル 木村順吉
婦人科産科 木村病院
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

◎婦人病専門
院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮様前 電話新橋三三二四
櫻井醫院

●水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

産科婦人科専門 ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
二各科診察從前の通
東京病院
芝愛宕町 電話新二六四 同二六二〇

◎◎婦人科小兒科専門
午前宅診 午後往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

●花岡(小兒科 婦人科)醫院
本院（神田區御成街道榮町）
診察所（日本橋區通り三丁目）
入院應需

内科一般 午前宅診 午後往診
東京神田美士代町三丁目十九番地
電話本局貳千九百七十番
板垣亨

小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
●電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髄神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

腦病脊髄病
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇 神經痛運動障害等
◎午前 自宅 神田多町壹ノ八
◎午後 岩佐病院 日本橋區蠣殻町
醫學博士 土田卯三郎

内山小兒科醫院
午前宅診午後往診 入院隨時
淺草區下平右衛門町十七番地 柳橋通り（電下一三六五）

岩佐病院 日本橋區蠣殻町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間 自午前九時至正十二時
内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長 ドクトル 岩佐新
（獨乙留學中）副院長 醫學士 高田壽
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髄病 醫學博士 土田卯三郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

旅行家と石鹸

抑も水には硬水と云うて石鹸の溶解せぬ水と軟水と云うて石鹸の溶解する水との二種がある事は理學上明瞭なる譯である然るに世の中の人は此區別を明にせず石鹸さへ用ふれば足れりとして居るが是れは石鹸を無益に使うと云ふのです一時間の洗濯に二時間を費し一錢ですむものを二錢も三錢もの石鹸を減らして居るのは實に經濟上不利益な事ではありませぬか所で普通一般の水は皆硬水と見做して差支へはない殊に山間の水温泉鑛泉海の水等は其甚しきものである然るに今や鹽水石鹸と稱する實用石鹸

MARINE SOAP USED IN ANYWETER

發明せられたのは經濟上空前の幸福と云はなければならない鹽水石鹸はどんな水に使うても其効能を顯し能く身體を清め頭髪衣類食器類如何なる品にても物質を損ぜずして光澤を出し而かも消毒の効力があつて僅かにして速に清淨する家庭經濟の一要品であります鹽水石鹸には化粧用と洗濯用とありますが共に黒褐色のものである鹽水石鹸は實要の重寶品で亦た進物に適します

鹽水石鹸は化粧用一個參拾錢同小判形拾五錢同特製品壹圓五十錢送料壹個に付き何所も五錢で同洗濯用は棒狀大小と同形打大小で直段は御照會次第速かに御回答致し升製造所は府下荏原郡南品川二日市二百六十一番地平澤石鹸製造所で發賣元は東京日本橋區本町三丁目廿一番地三實堂電話本局一二五七番振替貯金口座四三六七番である處で御購求の際に登錄商標と三實堂の文字に御注意なさらんと飛んだ僞物を押付られる事があります

胃病良藥 太田胃散

最上醤油

キハク印

於淡路島博覽會 名譽大賞牌受領

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 信略號(キハク)又(ヘハク)

キハク印

醤油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

於今回東京勸業博覽會

名譽銀牌受領

最上醤油元祖

○宮内省御用達也
○開業二百六十三年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也

釀造元 下總銚子町 濱口合名會社 （振替貯金番號五〇二一）

北辰社牛乳は最も滋養に富む

明治十九年二月十四日一等褒賞を受く

北辰社精製のバタは味佳良

明治十九年三月十四日一等鑑定狀を受く

大俵炭

大徳用 山出シノ儘ニ入堅炭、土釜、切炭、壹俵ハ拾貫目内外入

目方ウリ 市内ハ無賃配達

戸塚商店 （電話本局三二〇八） 神田三崎川岸

袴乃親玉

卸部 東京日本橋區長谷川町 美濃磯本店 電話浪花二八五九番

小賣部 本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店 電話下谷一四一五番

淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店

日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店

神田區小川町 美濃磯神田支店

深川高ばし際 美濃磯支店

芝區新櫻田町 小田商店

牛込區神樂町一丁目 伊澤商店

四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

めりんす友仙 お誂 もすりん 新形反物品々

東京日本橋区人形町通り 赤のれん

久邇宮妃殿下賜御買上之榮

調製 オペラ香

大瓶壹圓八拾錢 小瓶四拾錢

東京日本橋區米澤町一ノ一 鳳舞堂

陸海軍人及華族、醫藥學博士より賞狀を賜る

氣分を爽快ならしめ口中を潤し聲を美くす

ゼムは偉大なる効能、愛すべき美味、馥郁たる香氣を有し消化と解けしに効ある良劑也

ゼムは氣候の變ぜし風土異なる惡臭の場所に携帯し常用せば時候あたり、水あたりを治し流行惡疫を豫防なす一等藥なり

ゼムは紳士、貴婦人、軍人、學生、實業家、旅行家の必携劑にして集合場、雜踏場、宴席、滊車、滊船中に於ては欠くべからざる要劑なり

ゼムは二三粒を含ば精神快活口中優雅佳香を放ち人座を爽快の感ぜしむ故に衛生家は談話、喫煙、飲酒、食前食後に賞用なす貴重良劑なり

藥價 七十五粒拾錢 百六十粒貳拾錢 四百粒五拾錢 九百粒壹圓 新意匠容器ゼム入廿錢

日本一手發賣 東京馬喰町二丁目 愛國堂 山崎榮三郎

支店 大阪道修町二丁目 山崎兄弟商會

◎全國到る處藥店化粧品店にあり

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）

日本興業銀行

電話本局 一、二八〇番 三、三〇〇番 四一番 （特）三七番 一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 **森村銀行**

電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
小口當座預金 同日歩 壹錢壹厘

宇山禄子著

割烹叢話 全壹冊

八月廿五日發行 菊版和裝美本 紙數三百六十頁 定價金七十五錢 郵税一部金八錢

本話は家庭の友、女學講義等に時々其の一部を掲載せられし宇山夫人が多年本會にて貴婦人方に敎授せられたる和洋食割烹中より粹を拔き速記したるものにして其講述極めて懇篤なるゆゑ之を讀みたまはゞ面り夫人に對して其説話を聽かるゝに異ならず且本話の特色は世に在放れたる割烹書の未だ曾て説かざる所を詳説し又古來割烹家の口傳と唱へて公言せざりし秘蘊をも開陳したれば庖丁を手にせられたることなき方樣も一たび此書を繙きたまはゞ立ろに割烹の奥義を會得せらるべく若夫れ豫て割烹に心がけらるゝ貴婦人方此一本を備へたまはゞ日常の總菜は勿論節句、物日の膳部より御主人晩酌の肴菜に至るまで調理遊ばすに御參考には必ず御便利多かるべし

割烹叢話發行所 東京牛込區辨天町三八 掌饌會
大販賣所 東京神田 東京堂 牛込區天神町 積文堂

東京市日本橋區通三丁目

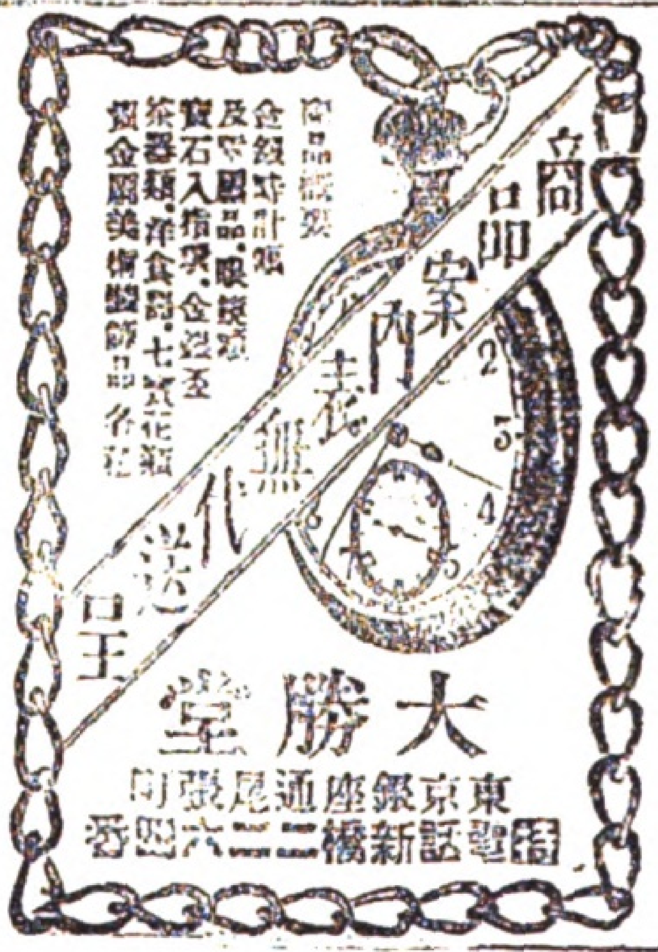
第一生命保險相互會社

電話 本局一三七三 本局一七三七

高等滋養飲料
夏期御進物最佳品

發賣元 日本葡萄酒株式會社

本店 越後國高田町
支店 東京神田柳原河岸廿四號地
電話浪花二二一番



スコット乳剤

代理店 橫濱市山下町廿八番館

米國貿易商會

東京博覧會に於て壹等賞牌を受領せる西川風琴

和洋樂器 平圓盤發音器

◎花形發音器各種新荷着

樂器 十字屋 書籍

電話新橋一二五九

東京銀座三丁目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用 ワッセル

◎此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◎用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ます〻シャツの如きは(拾貳匁)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です
定價　拾貳匁入 金拾五錢　六匁入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉 ワッセル

◎此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々すおしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり
定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢 壹拾錢 三錢 拾七錢
英國製ワッセル日本一手販賣元　御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七二二
三友商會

日本第一の大勸業場

本場の特色
あらゆる物品を最も低價にて正札附にて陳列販賣し市内八方へ無代配達致し居候
物品切手を發賣す
館内設置の店々にて隨意御望みの品と引換あり

ラクダ石鹸

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかをりを失はざる一大特點を有す
定價　大形廿錢　小形十錢
芳香藥種問屋　東京日本橋區本石町三丁目　本舖　井上太兵衛

ムスク香水

(大瓶壹圓◎中瓶六拾五錢◎小瓶二十五錢)
○本品は芳香の永く保つ點に於て類る高評なり
東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹸本舖
本舖　松澤常吉
(電話本局貳千四百五十番)

女子文壇

三十八年一月創立
女子文學研究最好雜誌
三卷第十二號 九月一日發兌　定期增刊第十一號 (秋の〇〇) 八月十五日發兌

毎號選評　文學士沼波先生○廣津柳浪先生　嚴谷小波先生○河井醉茗先生　佐々木信綱先生○山中古洞先生　其他編輯局諸氏

毎月一回壹日發兌(外に四年四回 二月五月八月十一月 增刊)

口繪　三宅克己先生揮毫 水彩畫(石版數度密刷) 繪端書 繪手本 寫眞版 挿入 數葉
定價 最廉無比 壹冊(大判百卌頁) 金拾錢 郵税壹錢
◎半年分(增刊共八冊)郵税共前金八拾四錢
◎壹年分(同十六冊)同前金壹圓六拾錢
發行所　東京市京橋區大鋸町十一　振替口座第壹七貳九番　(電話本局六百七番)　女子文壇社
▲賣捌所各地到る處にあり若し最寄に取次販賣店なくば發行所へ購讀御申込を乞ふ

▲懸賞投書募集項目(毎月十五日締切)
◎叙事文 ◎抒情文 ◎評論文 ◎俳句
◎小説 ◎新體詩 ◎書翰文 ◎和歌
◎新歌謠 ◎短文 ◎笑話 ◎圖書
◎文藝遊戯 (其他誌友諸嬢の思ひ〳〵事)
賞品　甲種・一等拾圓 二等三圓 三等八拾錢 四等五拾錢 五等三拾錢
乙種・一等五圓 二等壹圓 三等五拾錢 四等貳拾錢 五等拾錢
▲詳細の事は本誌に就て御覽を願ます▼

ムスク香油

内務省衛生試驗所檢查濟
ムスク香油
●原料は純良なる植物油
●芳香は「スミレ」と「ムスク」(壹瓶五拾錢)
東京本石町四丁目
ムスク香水本舖
松澤常吉

ゴム裏雪踏

登錄商標　N.R. CO
ゴム裏雪踏
●發賣元　東京市神田區上白壁町九番地(電話本局貳千五百五十參番)　今井商店
●販賣所は全國到る所の有名なる履物店にあり(近頃粗惡なる類似品あり御注意を乞ふ)

東宮妃殿下御買上ノ榮ヲ得タル化粧水ハ本品ノミ

牛乳ノ主成分ニテ製セル
乳白化粧水
レート
定價　大金五十戔　小金三十戔
内地郵送料金八戔　臺灣滿韓郵送料金三十戔
東京市馬喰町一丁目　平尾贊平
大阪市南久寶寺町二丁目　平尾贊平支店
販賣店ハ全國到ル處ノ和洋小間物商及ビ賣藥店ニアリ

レートは美人ばかりが用ふる品ではないレートを用ふると美人になるのが不思議……いや不思議ではない効能があるからである

◎日本品の好評を羨み一見判別し難き摸擬品續出せり平尾贊平の文字に御注意を乞ふ

婦人世界

此男女間の大文字を讀まざる人ありや
婦人世界
九月一日發行　二卷第拾號　一冊拾錢郵税壹錢六冊五拾五錢郵税共壹圓九拾錢
出たり　男女戀愛論　村井弦齋
▲眞の戀愛は如何なるものぞ
▲男子の戀愛は如何なるものぞ
▲女子の戀愛は如何なるものぞ
▲日本人は情と慾といづれがつよきか
▲東西婦人の愛情は孰れが濃やかなる
▲戀愛は果して神聖か
◎大困難と戰ひ一棚橋刀自
◎女中より成功せし主婦
◎不姙症全治實例…榊博士
◎男は如何にして産まるか
◎子供の矯正せし實驗
◎感心な女學生(校長直話)
▲本號には千圓を面白く分配する大懸賞募集あり
◎果物を小兒に與る注意…加藤博士
◎我は如何なる妻を望むか
◎私の感心せる奥樣(山脇)
◎娘を嫁に遣りし實驗(原)
◎辨當の料理　弦齋夫人
◎少女欄益々好評小説以上
▲口繪▼名家令夫人 ◎名流令嬢 ◎新婚寫眞 ◎其他種々
◎弦齋夫人の料理談　價六拾錢 郵税八錢
◎家庭菓子製法　價五拾錢 郵税六錢
東京京橋南紺屋町十二　振替三二六番　實業之日本社　賣捌各地書店

小説 琴の音

幸田露伴氏補
故村田琴女史稿
著者は蝸牛門下の才媛なり。其文を屬しては活潑洒脱、而も清淑の氣品に於ては當世閨秀文與家中匹儔を見る事空なりとす。本編は實に此女作家が殘芳の遺篇にして、芳詞風懷、人情の琴線に觸れて鳴り機微盡く活動す清風來る所斯篇を繙くあらば薰蘭自から薰りて白衣の神女眼前に縹緲たらむ
梶田半古氏表装　洋装頗清洒
實價金卅五錢　郵税金四錢
東京日本橋　發兌　春陽堂

明治四十年九月五日發行(毎月五日廿日二回)(定價金三錢一ヶ月六錢郵税不要)(廣告料一行金六拾錢)發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　大久保高明　發行所　東京麹町區飯田町　愛國婦人發行所　印刷所　東京牛込區市ヶ谷加賀町　秀英舍工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

○總裁殿下御歸京　總裁殿下には小田原御別邸へ御避暑中の處去月廿一日無事御歸京遊ばされたり

○伊藤統監歸朝につき出迎　此度日韓新協約を成立し、尚ほ今後の對韓政策につき、打合せのため、此程歸朝せられたる伊藤統監の、去にし廿日入京に付き、本會々長代理千家男爵夫人を始め、評議員幹事等の婦人方は、新橋停車場に出迎へられたり。因に云ふ、統監は去る日韓國京城を出發さるゝ前夜、兒玉相談役に親しく面會せられ、先頃韓國の事變に際し本會役員達が負傷者の世話などに活動せし狀況を聞取られ、斯く日韓兩國婦人の打混じて、負傷兵救護に盡力されつゝあることを、痛く悅ばれ、尚ほ今後の本會發展上の事など、深切に注意を與へられたりといふ。

○函館火災につき臨時救護　函館支部總會は、八月廿六日開催の筈にて、諸準備も出來上り居たるに、意外にも其前日、即ち八月廿五日の大火にて、同市は非常の災害を受けたり。該地へ出張ありたる有島評議員より左の電報八月廿六日午後二時本部へ到着せり。

昨夜今朝當地皆燒けた、無事避難す、總會出來ぬ、狀況悲慘

本會長よりは、此非常の災難に對し、函館支部長へ、左の通牒ありたり。

今般貴地火災に付、類燒の軍人遺族並に廢兵（四項以上）の者へ、臨時救護として金圓を貧窮の程度に依り、贈與相成候間極貧窮者には六圓、遞次四圓、二圓等の差を附し、貴支部長の御見計を以て、適宜贈與方速かに御取計相成度而して此金圓は一時貴支部にて繰替贈與人員確定御報次第送金可致此段申進候也

○長野支部總會の延期　來九月八日開催の筈なりし長野支部總會は俄に別紙申立の儀ありて、去月廿六日附を以て本會長は閑院宮家令松井修德氏迄延期の儀稟申相成たり。

來九月八日を以て當支部第一回總會を開催し　總裁殿下の御台臨を仰ぎ奉り、且本會々長以下職員各位にも御來臨相成候豫定に相成居り候に付いては、之に關する諸般の準備今や進行中に有之候處、過般長野市に腸窒扶斯病發生し漸次蔓延して殆ど全市に渉り、現在患者既に七十有餘名に達し病勢猖獗尚日に增加し、目下の處、終熄の期豫測り難し、此際に當りて、總裁殿下の御台臨を奉仰候事誠に恐懼の至に堪へず、且又此際數千の會員を召集するは、最も危險なる次第に御座候間、折角準備に取掛り候折柄、頗る遺憾とする處に候へども、一時總會を延期し、更に時節を計りて、開催致し度此段御承認可然其筋へ御執成被下度實況を具し稟申候也。

明治四十年八月廿一日

愛國婦人會長野支部長大山德子

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子殿

因に云ふ、長野支部主事岩下神太郎氏は此程上京來會ありて、實地視察せる長野市病勢の模樣等報告ありたり。各市郡に割賦し、會員募集の事も大に捗どり、豫定數以上に達する見込にて、役員方の盡力は非常のものなりし由、數千の會員に過ぎざりし同支部は殆ど二萬に達する增員を見るの盛況にて、支部長始め、支部役員の盡瘁に對しても此度の總會延期は、遺憾の至りなりと同氏は話し居られたり。尚各幹事部役員諸氏に對して、好時期を以て開會の事を實行すべく、決して挫折せぬ樣奬勵し居らるゝといふ。

○有島評議員　昨四日午前八時函館より無事歸京せられたり又同地へ出張中なりし黑田事務員も歸京せり今回同地火災の詳報は次號に記載すべし

○事務員名簿に就いて　諸支部よりの要求あるにつき、今回左の通りを刷物として要求支部へ配布せり。

○愛國婦人會本部會計監督以下職員

會計監督兼事務長代務	佐藤正
仝	高橋新吉
事務長	松平直敬
事務長補助	高松鐵太郎
庶務課	
課長兼愛國婦人編輯	大久保高明
庶務掛	香川國平
仝	保田熊造
人事掛	戸田親長
受附掛發送掛	岩井惠積
救護課	
課長	高郁光照
救護掛	黑田剛
會計課	
課長	杉原金德
會計掛	小池鑑市
遊說員	富樫眞喜子
	野中瀾知子

各支部主事（事務員事務取扱）氏名

支部名	職名	氏名
臺灣	主事	佐藤友熊
	同	高山仰
	同	齋藤參吉
北海道	主事	吉田直太郎
東京	主事	清水彦五郎
大阪	事務員	龜岡豐識
京都	主事	八田一精
神奈川	事務員	日比知周
兵庫	主事	宜見其材
長崎	主事	後藤賀
新潟	主事	高內眞賢
埼玉	主事	佐野良次郎
群馬	主事	津金豐昵
千葉	主事	永井錬巖
茨城	主事	榊俯明
栃木	主事	山內種樹
奈良	主事	鮫島宗鶴
三重	主事	山田克治
愛知	事務員	杉山克三郎
靜岡	主事	田中久太郎
山梨	主事	有賀實
	同	齋田齊英
滋賀	主事	田中亮
岐阜	主事	四尾信達
長野	主事	岩下神太郎
	同	乾長昭
宮城	主事	石森季靜
福島	主事	松本正理
岩手	主事	山田吾三郎
青森	主事	馬場文雄
山形	主事	木村忠恕
秋田	主事	沼澤七郎
福井	主事	福井愼吉
石川	主事	佐藤鈞他郎
富山	主事	加藤敬次郎
鳥取	主事	山田唯藏
島根	主事	吉田謙太郎
	同	中村秀年
岡山	主事	武本義家
廣島	主事	門川正之
山口	主事	山根恭太
和歌山	主事	兒玉義久
德島	主事	岩野三樹雄
香川	主事	片岡正倫
愛媛	主事	丸山義節
高知	事務員	丁野正綱
福岡	主事	土岐小二郎
大分	主事	羽田野正
佐賀	主事	藤澤喜志太
	同	佐桐啓迫
熊本	主事	河內山熊太郎
宮崎	主事	成合德次
鹿兒島	主事	市來正幹
沖繩	主事	日比重明
函館	主事	北守政道
韓國委員本部	主事	近藤左右一
	同	大橋次郎

愛國美譚

◎不知火の燃ゆる熱誠

愛國婦人會熊本支部長押川夫人は去る八月十四日肥後國天草郡阪瀨川村なる田尻幹事の招待に應じて出張し、勸誘せられたる結果、田尻幹事平山村長等の熱心なる盡力により、直に多數の入會者を得、且つ目下續々入會者を得つゝあり。廿四日は志岐村の高等小學校に於て、談話會の催ありしが、相會したるもの同村會員及有志婦人の總てと、森田村長を始め、村會議員區長學校職員役場員有志等合して六十餘名の多きに達し、森田村長及幹事平井ひて子等專ら周旋の勞を取り頗る盛況を極めたり。當日押川支部長は、吉尾富岡町助役と共に臨席して、婦人會設立の主旨に就き懇說せられしかば、大に一同の感動を引きて、新に入會を申込みたるもの數十名の多きに上り、尙目下續々入會者を得つゝありと云ふ。さて翌二十五六の兩日は未明より夜間にかけ、河內山主事を從へて、富岡町及同町附近に於ける戰病死者の遺族を歷訪し、殊に一遺族の如きは、山中の一つ家にて、岨道荊棘に塞がり、幽溪密樹に蔽はれて通ふべき方も無かりしを、纖弱き婦人の身を以て、危險をも顧みず或はこゞしき岩根を踏み分け、或は山畑迫田の畦畔を迂回し、嶺より谷へ、谷より嶺へ辿りつゝ、さらぬだに、耐へ難き此頃の炎熱を冒して、漸く其家に尋ね着かれたるに、簷傾き壁破れ、見るからいぶせき住ひなれば、腰を下さん術もなし。家族等は知事夫人の來訪せられしと聞くや、驚愕の餘り、暫しは言語も發し得ず、かゝる貴き身ながら、態々賤山がつが庵を敲かるるも、畢竟吾が子の微忠を君國に致したるに依るとは云へ、餘りに勿體なき次第なりとて、感淚に咽びつゝ、挨拶を述べしが、眞樸朴訥なる田舍辯に盡し難き衷心の悅びは、滿面に溢れ、死者もこの光榮ある夫人の來訪に逢ひて、九泉の下、如何計りか有難き志に泣きけんかし。夫人も坐ろに同情の感に打たれ、若干の香料を贈りて歸路に就かれしと。二十七日同地より歸熊せらるゝや、富岡町長松本氏を始め、婦人會幹事以下會員地方有志等の見送り頗る盛んなりしと云ふ。又、愛國婦人會玉名郡腹赤村幹事なる岡村とく子氏は終始非常の熱心を以て本會の發展を圖り、嚮に二等有功章を授けられたるが、日露戰役後同村及鍋、六榮二村の會員を勸誘して、義死紀念碑を建設せんとし、日夜東西に奔走して、遂に多額の寄附金を醵集し、此程漸く竣工せしが、右費金の餘剩金五圓を三村婦人會員總代として、本會熊本支部の經費中に寄附したりと、誠に美擧と謂ふべし。

◎電話番町五百二十番　千七百四十五番
愛國婦人會本部　東京支部　愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○東京支部　今回の大出水に付ては當支部の如きは遺族廢兵中に大に困難に陷り居る者あるに付支部長始め幹事の方々は其訪問慰藉に多忙を極めつゝあり尚極て困難なる遺族廢兵には同支部より臨時救助の道を講じつゝありと云ふ

○函館支部　第二回總會は戰前より戰後に續き始めての開會のことにてあれば同支部役員方の周旋盡力にて寄附金も多額に集り會員も增加し極めて盛大に舉行せんとの意氣込みなりき當日は本部より岩倉會長代理青森支部長並に評議員幹事諸氏等々外本道各地の名士及會員等集會者非常に多數に上るべき見込なりしと

○北海道支部　函館支部總會へ同支部よりは支部長代理として副長手塚とま子評議員内藤芳子主事吉田直太郎事務員小池九一氏廿五日札幌發一番列車にて出發參列の筈なり

○青森支部　函館支部總會に當支部より支部長四瀬泉子主事代理一名、役員(婦人)二名參列する筈なり

○群馬支部　同支部にては今回部會に依り前橋幹事部を廢し支部直轄となりしに依り市内在住の同會員は身分異動等の諸屆は總て同支部へ其時々提出すべき筈なりと

○香川支部　來る十六日午後七時より高松市御坊町興正寺派別院に於て本會高松支部會主催となり村上文學博士を招待し講話會を開き盛會なりし

○廣島支部　同支部長宗像直子夫人より各郡幹事長へ左の通牒をなしたり

當支部第一回總會(十一月二十一日)に參列する一般軍人遺族(恩給法に依り扶助料を受くる本人將校をも含む)廢兵(負傷症項第四項以上將校をも含む)に對しては此度に限り貴賓を不論總裁殿下の思召に依り特別下賜金二圓並に總裁殿下御染筆御獻寶寫一葉宛御下賜可有之筈に候但し廢兵第一第二項症の者に在ては不參者にても特に御下賜有之候も其他の者に在ては代人を許さず參列したる本人に限る義に候旨本部より申來候間遺族廢兵にして總會に參列すべき人名左の通り御取調べ來る九月十五日迄に當支部へ御通牒する樣御報告有之度此段申進候也　(八月十六日附)

第一回總會參列廢兵遺族人名簿　何幹事部

戰死準戰病死者實姓名	住所	戰死準病死者との續柄及姓名
步兵・何某	何郡何町村番地	寡婦　何某

但廢兵の項症は欄外へ記入のこと(第何項症)

△廣島幹事部の講話會　廣島幹事部は目下會旨普及及會員募集の爲目下市内に於て講話會を開催しつゝありて昨日午後七時より猿川町永照寺に於て渡邊評議員外六名の主催の下に同町外十七ケ町の有志婦人を招集し講話會を開催の筈なりし處右は都合により來る十七日迄延期したり當明後十五日午後八時より大須賀町萬陵寺に於て十六日同國富町東勝寺に於て右同樣の講話會を開催する筈

○兵庫支部の救護金　當支部に於ては戰死者の遺族及廢兵にして生計困難なる者一千三百十二戸に對し定期救護金として本部より三千二百二十八圓、支部より三千二百二十一圓を支給したり

△同上姫路幹事部　飾磨郡に於ける廢兵及軍人遺族困窮者中愛國婦人會より救護を受つゝある者へ今回救護金分給せられ廢兵一名、軍人遺族五十五名に對し同會岩倉會長より三圓以上八圓以下の範圍内に於て本年度分下附せられたるより二十二日之れを夫れ〲傳達をなしたり又同郡に於ける愛國婦人會、赤十字社、各會員は近來著しく增加し最近調査によれば愛國婦人會有功章佩用者四人、特別四十四人、通常二千二百三十四人、赤十字社員特別十一人、終身四百十九人、正社員二千八百九十四人

○長野支部　總會前に豫定數に達せしめんとの見込にて各幹事部とも大に增募に盡力せしが各部とも極めて好成績を得たり上水内郡にて來る九月同支部總會開會に付會員募集中の處昨日迄に約七百名の應募者ありし之にて現在會員千餘名に總したるが尚續々應募ある模樣なれば總會迄には千五百名に達すべき狀況なり

△同上支部諏訪幹事部は同支部總會前に當り會員募集等の要務を兼ね役員會を開き賞牌並に木杯傳送式を舉行し次の報告を送り越されたり追て當日の寫眞は次號の附錄とすべし

本月七日當幹事部に於て明治三十七八年戰役紀念賞牌並に木杯傳送式舉行其狀況左の通りに有之候に付貴會發行の愛國婦人へ御掲載相成度此段及御通知候也

明治四十年八月廿九日　愛國婦人會長野支部諏訪郡幹事部

愛國婦人會御中

追て其當時の寫眞一葉別便を以て及送付候に付同時に附錄として御掲出被下度就ては掲出の雜誌三十部購入可致候間御發送相成度申添候也

一愛國婦人會長野支部諏訪郡幹事部に於て明治卅七八年戰役紀念賞牌並に木杯傳送式を去る七月七日午前十一時諏訪郡役所樓上に舉行受領者來賓一同着席大山本郡支部長代理副長早川イツ子事務員佐藤和子を從へ臨席幹事部長廣長清子先づ各町村幹事四十七名に賞牌事務員貳名に木杯を一々傳送し更に早川支部長代理より委員及戰役中の功勞之に準ずるもの三十七名に對し木杯を授與し終つて廣長幹事部長式辭を朗讀し以て早川支部長代理の祝詞朗讀幹事部顧問廣瀬郡長の祝辭來賓諸官衛員總代上諏訪稅務署長永田五七氏諏訪中學校長守島傳右衛門氏町村長總代中村喜之助氏軍人共勵會代表者陸軍一等主計名取爲吉氏新聞記者總代長野新聞特派員牛山天外氏の祝詞演說賞牌受領者總代小澤明代子木杯受領者總代町村長委員小口勘福氏福田會委員側丸山榮臣郎等の答辭ありて閉式夫より玄關前の廣庭に於て一同撮影後茶會を催し散會幹事委員等は尚居殘り會員募集其他につき協議を凝せり

一廣長幹事部長の式辭大山支部長の祝詞小澤明代子の答辭等左の如し

式辭

明治三十七八年の戰役は我國有史以來の大戰にして其出征の勇士は彈丸雨飛の間に出入して朝に風霜に沐し夕に血雨に浴し金を鑠す熱さにも屈せず肌を劈くの寒さにも撓まず屍を曠野に横へ骨を異域に曝しゝもの顯て國の光となりて上は大君の宸襟を安し奉り下は萬民の堵を安するに至りぬ此の秋に方り我愛國婦人會員は本會の旨趣に基き報國の赤誠と同情の熱涙とを以て專ら後援救護の事に盡したりき茲に本會は其功績を表彰せんが爲に紀念賞牌を賜與せられ諏訪郡幹事部は本日を以て其傳贈式を舉行せらる其選に與らるゝ諸姉の光榮は實に偉なりと謂ふべし然れども本會の事業は前途尚遼遠なれば益此の名譽を保持せられて更に一層の力を盡されんとを希ふ聊感する所を述べて今日の祝詞に代ふ

明治四十年七月七日　愛國婦人會長野支部長　大山綱子

式辭

明治卅七八年日露戰役に際し親愛なる吾が愛國婦人會諏訪郡部員は深く本會の旨趣を體し軍隊の送迎戰病死者の弔祭遺族の救護其他恤兵一として熱誠獻身的ならざるなし今や總裁殿下に於かせられては忝なくも紀念牌章を下賜せられ玉ひ本日支部長其他貴賓の臨場を得傳送の式を舉行するは誠に光榮とし感激措く能はざる所なり嗚呼會員たる令姉令妹は今後益々會務の擴張に勤め今日の光榮を發揮し以て總裁殿下の御旨趣に報答せられんとを深く冀望に堪えざるなり爰に式辭云爾

明治四十年七月七日

愛國婦人會長野支部

諏訪郡幹事部長　廣長清子

答辭

日露の戰役はいにしへよりかつて見ざる大勝利に終りぬ皇御國の御威稜いやが上にあがり世界一等國の地位を占むるに至りたるはよろこびても餘あまりある嬉しき事にこそある愛國婦人會又この戰役の間東に飛び西に走り矢て大につくしたるは吾國婦女子の性能くならわしたるものにして誠にかぎりなきめでたきことにぞある我等其會員の末につらなりたゞへらるゝ數には入れど其つとめ未だ志の中にも至らざるに本會よりは特に紀念賞牌を下賜せられ光榮身にあまりあるさへあるに此吉辰にあたりしかも盛なる傳達の式をあげさせられ數多き方々の祝辭などたまわり限りなきほまれをになひたるは賞賜せられたるもの一同のよろこび物にたとうるにすべなし將來いよ〱つゝしみ安き皇にむくいんとす

明治四十年七月七日　受賞者總代　小澤明代

○島根支部　去八月十六日午前九時より本會島根支部評議員會を開く今回の總會に關する經費の豫算其の他送迎に關する事等を協議せり　閑院宮妃殿下の御旅館は普興館を以て之に充て又御滯在中は湖上煙火を打揚げ夜間は流火を催し市内各所に盆栽、活花等を陳列する筈なり

△松江市賣店設置の計畫　來る九月廿六日當市において本會島根支部總會開會、總裁閑院宮妃殿下台臨あらせらるべきを以て該總會前後を通じて約一週間松江市役所樓上及び春陽館を會場として賣店を設置せんとの議あり伊藤藤之助秦澤岩三郎等の諸氏市役所において協議する所ありしが右は昨年米子においてて中國五縣聯合畜産共進會開設の際當市に開催せし賣店と略ぼ同規模のものを開催せんため昨年の賣店に關係せし人々を發起人として近日中に市役所へ參集を求め右計畫上の協議を凝らす筈なりと

△仁多郡幹事部總會　去る二日午後二時より仁多郡三成村愛國婦人會總會を同村高等小學校内に開く來賓の重なるは平田郡長、高橋三成警察署長等にて先づ君が代の奏樂あり山本幹事部長の開會の挨拶に次で山本同會顧問、飯塚三成委員、高橋署長等の演說あり

島根支部總會出席の事、會員は各自必ず一名以上の新會員を誘導加入せしむる事、春秋二期に總會開設の事

の議題を討議可決して閉會茶菓の饗應ありたり

○熊本支部　幹事岡村とく子氏は先年來日露戰役紀念林創設の志望を起こし遂に之が目的を達し昨年同支部河内山主事を經て岩倉會長の染筆を申請し此に立派に建碑の事も果たしそが寫眞を送くり越されたり同氏の熱心感ずべし

○韓國委員本部へ見舞金の送付　愛國婦人會にては曩に京城の暴動に際し日韓兩國軍隊の負傷者に對し或は慰問使を派遣し或は慰問袋等を贈與する所ありしが今回帝國軍隊の負傷者一同に對し各人一圓宛の割合にて若干の見舞金を贈與したりと

○三重支部　鈴鹿郡龜山町林三作氏より左の記事を送られたり

點呼執行官の慈善と薄命の軍人遺族

本年簡閱點呼執行官として三重縣北部各郡市、出張の步兵第六聯隊附陸軍步兵大尉吉原理市氏の鈴鹿郡久間田村大字岸田故陸軍步兵一等卒山口爲造氏遺族の現狀を聞き惻隱の情禁ずる能はず金若干を與へて慰安せられたる美談を聞き得たれば左に實況を報導す

一故山口爲造氏一家は元來洗ふが如き赤貧者にして父傳右衛門(今は亡)母つる(安政六年九月生)弟音松(明治廿七年十一月生)妹しづ(明治卅一年十一月生)の五人暮にて漸く傳右衛門爲造の兩人にて日雇稼を爲し辛ふして其日の糊口を凌ぎつゝありしが母つるは明治三十一年中妹しづを分娩したる當時産後の肥立宜しからず爾來病床に呻吟しつゝあるも傳右衛門爲造の得る所の日雇賃は僅かに日々の糊口を凌ぐの費に過ぎず故に母つるをして醫療を受けしむるの手當なく時々賣藥を與へたりしも病症の何たるを辨せざるをとて賣藥の効顯更になく遂に慢性となりて足腰の自由を失ふに至れり

然るに爲造は身軍籍に在るをとて明治三十七年八月一日臨時教育召集に應じ步兵第三十三聯隊に入り教育の上、野戰隊に充用せられ清國に出陣する身となれり父傳右衛門は片腕と賴みし爲造の召集せられたるをとて召集後は必死となりて稼業に從事し漸く細き烟を立て居たりしに其年十一月頃より戰袋の疲を生し遂に病を起し妻つると枕を並べ病床に就くの身となれり弟音松は父の出稼中に妹しづの保育と母の看護とに從事するの傍ら健げにも炊事を掌り只管母の全快を祈りつゝありしに又も父の病床に就くに至りては幼兒なからも其責任一方ならず一心に之れか看護に從事し村の篤志者よりの惠與品を兩親に示し專ら慰安に勉めたりしも遂に其甲斐なく仝年十二月廿八日父傳右衛門は死亡せり實に其窮狀と悲歎の有樣は目も當てられざる慘狀を極めたり

母つるはかゝる場合に際會し其悲歎と心配とに依り病勢次第に重り一層の困難に陷りしを以て親族近隣のもの交々看護に從事せしかば稍々輕快に赴きしに重なる不幸は又も此一家を襲へりこは出征中の爲造氏の陣歿せる一事なり同氏は征途に就きし翌年即ち明治三十八年一月に清國板橋堡に於て傳染病に罹り篤き治療を受けたる甲斐もなく同月十八日遂に黄泉の客となりし旨の通知同家に達したる時は母つるの落膽一層甚しく二三日の間は泣伏し居たりしも村長區長井に村内篤志家の懇篤なる慰撫に依り漸く我に復るに至りしも持病は更に快方に向はず其後爲造氏の遺骨到達せしかば村は之を村葬とし盛なる儀式を以て弔ひたり」(未完)

北野鈴鹿郡長は此の憐れなる遺族の始末を完ふするとに心を碎きあらゆる方法を講じ郡振武會村振武會をして爲造氏出征以來每月金壹圓宛を支出せしめ生計を補助し爲造氏死亡當時郡振武會其他各團體井に篤志家より惠與せられたる弔祭料は總て村長の手許に保管し生活の實に充て漸く生活に差支なきを期したりしに傳右衛門生存中よりの負債は總額百三拾圓餘に達し債權者は理不盡にも爲造か戰功に依り拜受せし一時金二百圓の到達を聞き之れを卷き上げんとし病人に對し返濟を請求すると頻々たり(つゞく)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十年九月五日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

明治四十年五月　伏見宮貞愛親王殿下御渡英の際倫敦郊外「タプローコート」に於て「デスボロー」卿夫妻の催に係る午餐會後の撮影なり

小村大使

柴陸軍大佐

デスボロー卿夫人

馬場伏見宮別當（最後起立）

デスボロー卿（起立）

伏見宮貞愛親王殿下

加藤海軍中佐（着坐）

アーサー、オフ、コンノート親王殿下

宇高陸軍大尉（着坐）

山本大將

長崎顧問官（起立）

栃内海軍大佐（長崎氏の後ろに起立）

松石陸軍大佐（着坐）

財部大佐（起立）

西大將

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　大久保高明　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN